

水泳

水

67

日本水上競技聯盟機關雜誌

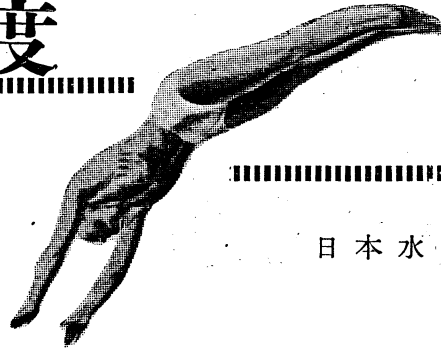
水泳

昭和十四年・第六十七號

目 次

- 昭和十四年度選手權水上競技總評……白山源三郎…(2)
- 水泳團設立を提唱す……………Steve Forsyth…(9)
- 女性と水泳……………白山廣子…(13)
- 飛込雜感……………原 秀 夫…(14)
- ジョニー・ミラーの競泳コーチ法……………(15)
- 日光金谷ホテル及川奈ホテルプール開き競技會……………(16)
- 第二回團體長距離競泳觀戰記……………小林高志…(17)
- 海外情報一束……………小山賢之助…(21)
- 第二回國民皆泳全國學童水泳大會……………松田保彦…(26)
- 故飯田光太郎氏記念牌……………(27)
- 故岩切盛行中尉記念牌……………(8)
- 昭和十四年度定例代議員會議事録……………(28)
- 日本水上競技聯盟日誌……………(32)

本年度



選手権総評

日本水上競技聯盟 白山源三郎

昭和十四年度日本選手権水上競技大會は八月二十三、十四の三日間夜間明治神宮外苑プールに於て豫定の通り行はれた。

第十二回オリンピック大會がフィンランドに於て愈々明年行はれることになつて居るから、本大會は日本代表選手を選定する豫選會として日本に於てのみならず世界の視聽を集める極めて重要な大會であつたことは申すまでもない。殊に時局下日本としてはオリンピック出場の可否が問題となり得る時機であり、其實力に於て出場の價値なしとすれば簡単に出場取止めの運命に遭遇する危険の多分にある時である。而も反面二連勝の譽高き水泳の事なれば時局下にありと雖も出場せしめ國威を發揚せしめたしとは國民の秘かなる希望である。さればこそ其實力に特に深い關心の拂はれて居る時であるから、其成果如何は洵に意義の重大なるものであつたのである。

例年の例によれば日米對抗の行はるべき年であつたが、時局下其不可能なるは申すに及ばないが、獨伊選手招聘計畫も成立するに到らず更に米國の有力選手數名の招聘を試みて見たが之亦A・A・Uの許す所とならず、時機押迫つてハワイに於ける太平洋選手権出場の濠洲カナダの選手の來征申出があつたが之亦、A・A・Uのサンクションを得られず沙汰止みとなり、結局外國選手を迎えることなく大會が開かれた。然し乍ら前述の如き本大會の持つ重要性は外國選手の來征による興味よりも更に深い眞摯な關心を喚び起し、各種目に互る選手の好調のニュースは大なる期待を呼び起し眞摯な視聽を集めた。

選手諸君にとつて見れば、オリンピック出場について軽い一抹の不安があり心持に於て割切れないものがあつたに不拘、寧ろ之を突破して當るべからざる意氣を示され、結果に於てオリンピック出場の價値性を高め、不出場の不安を一掃したかの感あらしめた事を感謝しなければならぬ。

本大會の記録は電波を通じて世界各國に送られた事であらう。支那のデマ宣傳により日本の國力消耗を信じて居る世界各國の民衆は嘸かし驚いた事であらうと思ふ、デマを吹き飛ばすに有效な働をしたものと云へる。

競泳は十二日午後六時百米自由形豫選より其幕を切つて落された。

A組	一着	佐々木 猛 (日本大學)	1:0.8
	二着	宮本 常司 (日立鑛)	1:2.4
	三着	本田 武次 (立教大學)	1:3.2
	四着	壺田 重三 (稻泳會)	1:3.2
B組	一着	杉田 芳郎 (稻泳會)	1:1.2
	二着	大崎 定兼 (立教大學)	1:2.6
	三着	小柳 清志 (中京商)	1:3.0
	四着	島本 耕作 (和歌山高商)	1:3.0
C組	一着	新井 茂雄 (立教大學)	58.0
	二着	牧野 兵庫 (伊都中)	1:1.6
	三着	杉浦 重雄 (稻泳會)	1:1.8
	四着	太田 忠勝 (立教大學)	1:2.0

同日百米自由形準決勝も行はれた。

A組	一着	新井 茂雄 (立教大學)	58.6
	二着	杉田 芳郎 (稻泳會)	1:2.0
	三着	壺田 重三 (稻泳會)	1:2.4
B組	一着	佐々木 猛 (日本大學)	1:0.6
	二着	杉浦 重雄 (稻泳會)	1:1.2
	三着	大崎 定兼 (立教大學)	1:2.0

準決B組で落ちたけれども中等選手の牧野兵庫 (伊都中) は豫選で一分一秒六を出して居り將來有望の選手であると思ふ。日大佐々木が一分も切り新井を相當追詰めるものと豫想されたのであるが容易に一分を切らず新井獨壇場となつた。

決勝は第二日の最初に行はれた。

一着	新井 茂雄 (立教大學)	58.6
----	--------------	------

- 二着 佐々木 猛 (日本大學) 1:0.2
- 三着 杉浦 重雄 (稲泳會) 1:1.0
- 四着 杉田 芳郎 (稲泳會) 1:1.6
- 五着 大崎 定兼 (立教大學) 1:1.8
- 六着 壺田 重三 (稲泳會) 1:3.2

新井は五十七秒臺を出すべく努力したであらうし又佐々木に追詰められる心配がなくなつた事でありよいチャンスであつたのであるが、初めの五十米を準決では二十七秒六、決勝では二十七秒七で泳ぎ遂に其目的を達し得なかつた。然し五十八秒臺のタイムは本年度世界唯一で而も必ず出すのであるから、オリンピックに於ける彼の優勝は安泰であると云へる。唯、短距離に唯一人の選手では少なからず心細い。佐々木、杉浦のどちらかゞ一步進めるか、若冠牧野が奮起するにより少くとも新井と同格の者がもう一人欲しいものである。

四百米自由形豫選が第一日に行はれた。我水泳陣の最も悩まされて來た種目である。然るにと云ふべきか或はそれだからと云ふべきか、本年此種目に一番多く有望選手が混み合つた。粒揃ひで豫選四組にもなり、初めから白熱戦となつた。

- A組 一着 宇田 守榮 (稲泳會) 4:55.8
- 二着 高橋 弘 (三田水泳會) 4:56.0
- 三着 津田 國男 (大阪十合) 4:56.4
- 四着 村山 修一 (伊都中) 5:7.8
- B組 一着 田中 英作 (稲泳會) 4:54.8
- 二着 片山 崇 (三田水泳會) 4:55.8
- 三着 鷺谷 光明 (日本大學) 4:59.4
- 四着 松山 正一 (中泉農) 5:5.6
- C組 一着 天野 富勝 (日本大學) 4:52.6
- 二着 鶴藤 俊平 (立教大學) 5:0.0
- 三着 栗原 徹 (日大) 5:2.0
- 四着 小倉源太郎 (和歌商) 5:9.0
- D組 一着 越戸 優一 (日本大學) 4:51.4
- 二着 宮本 茂 (稲泳會) 5:1.6
- 三着 伊藤 憲利 (日本大學) 5:3.6
- 四着 島本 信美 (三田水泳會) 5:6.0

新人津田國男君 (大阪十合、神戸中外商業出) が堂堂一流選手の間になつた然も立派な記録を出して居るのが異彩を放つた、寺田登 (慶應大) が振はず早くも豫選で落ちたのは意外であつた。

準決勝が同じく第一日に行はれた。

- A組 一着 田中英作 (稲泳會) 4:51.8
- 二着 高橋 弘 (三田水泳會) 4:51.8

- 三着 津田 國男 (大阪十合) 4:55.0
- 四着 栗原 徹 (日大)
- B組 一着 宮本 茂 (稲泳會) 4:48.0
- 二着 鷺谷 光明 (日大) 4:52.4
- 三着 片山 崇 (三田水泳會) 4:57.4
- 四着 宇田 守榮 (稲泳會) 4:57.4

宮本は物凄い實力を現し四分四十八秒を出し、三百を三分三十三秒二で泳いだ。天野が千五百に専念する爲か棄權して幾分淋しくなり鶴藤、越戸が落ちたのは残念であり、津田が益々元氣で第三位で入選したのは異とすべきである。

決勝は第二日に行はれた。

- 一着 宮本 茂 (稲泳會) 4:48.0
- 二着 田中 英作 (稲泳會) 4:48.4
- 三着 高橋 弘 (三田水泳會) 4:49.4
- 四着 鷺谷 光明 (日大) 4:53.6
- 五着 津田 國男 (大阪十合) 4:55.6
- 六着 宇田 守榮 (稲泳會) 4:56.2

宮本が稍群を抜いて居ると云へるだけで、それも三百米では高橋にリードを奪はれると云ふ有様で、熱戦の裡に終始した事はタイムを見たゞけでも判るであらう。タイムに就て見れば栗原が五分を少し出た丈で、八人中七人迄四分臺で泳いで居り、上三人まで四分四十秒臺であると云ふ物凄さである。オリンピックの四百の決勝でも之だけ粒の揃ふものでない。流石水泳王國なりと謳歌したい。

宮本の堅實さ、田中の精悍、高橋の重剛、之でいけねば之と云つた様な陣様である。之なら今度のオリンピックによもや不覺を繰返すことはあるまいと思ふ。

ラツプタイム表

選手名		100	200	300	400
宮本	準決B		2:19.0	(正式) 3:33.2	4:48.0
宮本	決勝	1:5.2	2:18.2	3:34.0	4:48.0
田中	豫B	1:6.8			4:54.8
田中	準決A		2:22.4		4:51.8
高橋	決勝			(正式) 3:33.8	4:49.4
鷺谷	豫B		4:23.2		4:59.4
鷺谷	準決B	1:5.4			4:52.4
津田	豫A	1:5.6	2:21.4	3:40.0	4:56.4
津田	準決A	1:6.8		3:37.0	4:51.8

百米背泳 豫選は第二日の最初に行はれた。

- A組 一着 兒島 泰彦 (三田水泳會) 1:8.6

二着	河野 通廣 (日本大學)	1:12.8
三着	奥田精一郎 (稻泳會)	1:14.0
四着	堀 泰一郎 (三田水泳會)	1:14.4
B組 一着	吉田 喜一 (稻泳會)	1:10.4
二着	妙中 要造 (三田水泳會)	1:12.0
三着	中野 太郎 (稻泳會)	1:13.0
四着	松 本 進 (昭和製鋼)	1:14.0
C組 一着	谷口 利弘 (日本大學)	1:9.8
二着	平 賀 孟 (立教大學)	1:13.0
三着	山本恭之助 (稻泳會)	1:13.4
四着	長谷川黄一 (函館商業)	1:16.8
D組 一着	坂本 响一 (立教大學)	1:11.6
二着	本間 竹志 (文理大)	1:14.2
三着	藤井敬次郎 (濱松一中)	1:14.4
四着	大野木 戊 (修道中)	1:19.0

準決勝と決勝は第三日に行はれた。

準決勝A組

一着	吉田 喜一 (稻泳會)	1:10.2
二着	河野 道弘 (日本大學)	1:12.6
三着	平 賀 孟 (立教大學)	1:12.8
四着	坂本 响一 (立教大學)	1:12.8

(最優四著)

B組 一着	兒島 泰彦 (三田水泳)	1:9.2
二着	谷口 利弘 (日大)	1:11.0
三着	中野 太郎 (稻泳會)	1:13.8
四着	妙中 造 (三田水泳)	1:13.8

吉田と兒島がA, Bに別れて居り同日に決勝があるで好記録は出ないが三・四着所の争は物凄いのがあつた。

決勝 一着	吉田 喜一 (稻泳會)	1:8.4
二着	兒 泰彦 (三田水泳會)	1:8.8
三着	谷口 利弘 (日本大學)	1:11.2
四着	河野 道弘 (日本大學)	1:12.0
五着	坂本 响一 (立教大學)	1:12.2
六着	平 賀 孟 (立教大學)	1:13.2

着順を見ても判る様に此試合は本大會切つての番狂せの行はれた試合であつた。吉田は二三年來進境を見せず兒島は堅實に進歩して且ての吉田兒島の對立は最早消えたかの感あり、從而背泳選手權は兒島の獨り舞臺であり、之を追ふものとしては寧ろ、坂本、谷口邊りに求めねばならない状況であつた。本大會前の評としても同様であつたと思ふ、豫選準決のタイムを見ても吉田が兒島を追ひ詰めるべくも見えなかつた。然るに俄然、吉田捨身の戦法に出たか

スタートより水をあげずに喰下り、調子に乗つて五十のターンの後にはグングン追越し、猛烈なセリ合をしつゝ遂に其儘ゴールインした。兒島にとつては不覺の敗であるが、吉田にとつては久し振に敵を仕止めた會心の仕合であつたであらう。米國の堅壘に對し最も弱點である我背泳陣に茲に再び吉田兒島對立の時代を現じ前途の好望を思はせるは芽出度い事である。

二百米平泳 豫選は同じく第二日に行はれた。

A組 一着	野田務 (明治大學)	2:49.2
二着	田畑 三郎 (京二商)	2:53.0
三着	吉村喜代造 (岸和田中)	2:54.4
四着	松原 正次 (耐久中學)	2:56.4
B組 一着	藤垣亮太郎 (茨木中)	2:51.2
二着	山口 正保 (明治大學)	2:57.6
三着	三輪 春雄 (稻泳會)	2:58.2
四着	木村 龍雄 (東邦商業)	3:1.0
C組 一着	大浦誠一郎 (立教大學)	2:44.6
二着	岩崎 粂郎 (波泳會)	2:58.4
三着	加藤 久男 (袋井商業)	3:0.2
四着	川野 隆三 (稻泳會)	3:0.8
D組 一着	葉室鐵夫 (日本大學)	2:41.6
二着	古 川 敏 (稻泳會)	2:49.6
三着	小幡令二 (濱松一中)	2:57.0
四着	加藤 英彦 (茨木中)	3:0.6

準決勝及び決勝が此日にないので後の心配がないから、入選確實な、葉室、大浦、野田等が新記録目標で泳いだ事は察せられる。殊に葉室が二分四十秒を破る爲の努力を拂つて見たのは事實だらう。五十米を三五秒四、百米を一分十五秒四、百五十米を一分五七秒で最後の五十米が三十四秒六で破れなかつた、百五十米の五十米が四十七秒四かゝつた所に破れなかつた原因がある。大浦の二分四十四秒六も立派な記録である、葉室が居るから目立たないが世界に誇り得る大記録である。小池なき後葉室の控として我平泳陣を磐石の重きに置くものである。

準決勝A組

		百米の時間
		50m37.6
一着	野 田 務 (明治大學)	2:50.0 100m1:21.0 150m2:6.4
二着	葉室 鐵夫 (日本大學)	2:51.4 (1:22.0)
三着	藤垣亮太郎 (茨木中)	2:52.0 (1:22.2)
四着	岩崎 粂郎 (波泳會)	2:55.8

B組

一着	大浦誠一郎 (立教大學)	2:49.4 50m37.6 100m1:20.2
----	--------------	------------------------------

- 二着 古川 敏 (稲泳會) 2:55.2 (1:24.2)
- 三着 田畑 三郎 (京二商) 2:55.4
- 四着 山口 正保 (明治大學) 2:56.4 (1:25.2)

決勝と同日に行はれた準決であるので唯順當に落ちるべき人が落ちたが、藤垣、田畑の二少年が共に堂々第三位に喰入つて居るのは頼母しい次第である。

- 決勝** 百米の時間
- 一着 葉室 鐵夫 (日本大學) 2:40.4 (1:15.0)
 - 二着 大浦誠一郎 (立教大學) 2:44.6 (1:17.6)
 - 三着 古川 敏 (稲泳會) 2:48.2 ()
 - 四着 野田 勝 (明治大學) 2:48.2 (1:20.0)
 - 五着 田畑 三郎 (京二商) 2:51.8 (1:23.2)
 - 六着 藤垣亮太郎 (茨木中) 2:52.2 (1:21.0)

結果から見て我平泳陣が其名聲に背かず搖ぎなきものであることを先づ結論したい。四着まで二分四十秒臺である、一・二着は四十五秒以内の最高峯に登りつめて居る。第一着は二分三十秒臺の未踏地に紙一重である。二分五十五秒では六着迄の入賞圏内に入り得ないと云ふ物凄さである。

葉室は今度こそはと二分三十秒臺の記録を目指して奮然泳いだと思はれる。百米を一分十五秒で泳いでラツプに於て豫選の時を少し短めて居たので、此大記録なるかと緊張したが、矢張百五十目の五十米の泳ぎ方に失敗してポイント四の違ひで逸した返す返すも残念である。大選手と雖も何か全ての條件の整つた馬鹿調子に恵まれなければかゝる大記録は出ないものらしい。その代り一度出たら仲々破られない記録である。葉室に今の内に一度此馬鹿調子に廻り會はさせて此待望の記録を一度作らせて置きたいものである。調子のよい時に思ひ切つて最後で浮く事を覺悟して百五十目で力を抜かず、飛ばし切りに飛ばして見たら此記録が出来ると考へる。

二百米自由形 豫選は第二日に行はれ、準決、決勝が第三日に行はれた。オリンピックに八百米リレーを構成する種目である爲、中長距離選手と、短距離双方から此種目を狙ふことゝ想像され混戦と優秀記録を期待したが、新井と宮本以外には特に優れた人を見出さず、試合も割合に平凡に終つた。

豫選 A 組

- 一着 新井 茂雄 (立教大學) 2:11.0
- 二着 杉田 芳郎 (稲泳會) 2:18.0
- 三着 島本 信美 (三田水泳會) 2:21.6
- 四着 宮本 常司 (日立鑛山) 2:23.8

- B組 一着 宮本 茂 (稲泳會) 2:15.8
- 二着 津田 國男 (大阪十合) 2:17.8
- 三着 牧野 兵庫 (伊都中) 2:20.0
- 四着 本田 武次 (立教大學) 2:21.4
- C組 一着 杉浦 重雄 (稲泳會) 2:18.4
- 二着 岩田 務 (立教大教) 2:19.6
- 三着 佐々木 猛 (日本大學) 2:20.0
- 四着 小柳 清志 (中京商) 2:23.0
- D組 一着 鶴藤 俊平 (立教大學) 2:20.0
- 二着 鷺谷 光明 (日本大學) 2:20.8
- 三着 川合 宗夫 (伊都中) 2:22.8
- 四着 壺田 重三 (稲泳會)

準決勝 A 組

- 一着 宮本 茂 (稲泳會) 2:13.6
- 二着 鷺谷 光明 (日本大學) 2:18.8
- 三着 鶴藤 俊平 (立教大學) 2:18.8
- 四着 牧野 兵庫 (伊都中) 2:19.6
- B組 一着 新井 茂雄 (立教大學) 2:10.8
- 二着 津田 國男 (大阪十合) 2:17.6
- 三着 杉浦 重雄 (稲泳會) 2:18.0
- 四着 島本 信美 (三田水泳會) 2:18.8

(途中計時百米、宮本、一分三秒六、新井一分一秒六)

- 決勝**
- 一着 新井 茂雄 (立教大學) 2:9.6
 - 二着 宮本 茂 (稲泳會) 2:14.6
 - 三着 鷺谷 光明 (日本大學) 2:17.0
 - 四着 津田 國男 (大阪十合) 2:17.2
 - 五着 鶴藤 俊平 (立教大學) 2:18.6
 - 六着 島本 信美 (三田水泳會) 2:19.2

二分十七、八、九秒所が目白押に控えて居る所は頼母しいが、十五秒を割る人がもう二人ないと八分臺確實優勝の判を押し兼ねる。大體大丈夫とは思ふけれども鷺谷以下の五六人の人々の今一步の奮起を希望する。佐々木、杉浦の短距離選手に特に期待をかけた。それにしても新井の九秒臺を出す強さは賞讃に値する。

途中計時表

氏名	組	100米の時間	終結の時間
新井	豫選 A	1:1.4	2:11.0
新井	準決 B	1:1.6	2:10.8
新井	決勝	1:1.2	2:9.6
宮本	豫選 A	1:4.8	2:15.8
宮本	準決	1:4.2	2:13.6

宮本	決勝	1:2.6	2:14.6
鷺谷	準決勝	1:3.6	2:18.8
鷺谷	決勝	1:5.4	2:17.0
津田	準決勝	1:3.6	2:17.6
津田	決勝	1:3.2	2:17.2
鶴藤	決勝	1:6.4	2:18.6
島本	決勝	1:5.6	2:19.2
杉浦	準決勝	1:4.6	2:18.0
太田(立教)	豫選 C	1:4.2	

一着	田中 英作(稻泳會)	19:53.0
二着	越戸 優一(日大)	20:10.8
三着	村山 修一(伊都中)	20:19.8
B組 一着	天野 富勝(日大)	19:32.8
二着	宇田 守榮(稻泳會)	19:43.8
三着	片山 崇(三田水泳會)	19:50.0
C組 一着	本間 俊夫(立大)	19:40.8
二着	高橋 弘(三田水泳會)	20:21.2
三着	馬場 止(日大)	20:41.6

千五百米自由形決勝

第二日の最後に豫選三組が行はれ準決なく第三日最後に九人により決勝が行はれた。

豫選A組

順調に以上九名が勝残つたが、高橋、馬場棄権し、天野の絶対優勢は勿論であるが田中強襲六百までリードを奪ひ宇田、本間、田中、片山等の間に相當の混戦を演じた。

決勝の結果及び途中計時表

着順	一着	二着	三着	四着	五着	六着								
氏名所属	天野 富勝 (日大)	本間 俊夫 (立教大)	片山 崇 (三田水)	田中 英作 (稻泳會)	越戸 優一 (日大)	宇田 守榮 (稻泳會)	村山 修一 (伊都中)							
水路	5	4	7	6	9	3								
100	2	1: 7.4	3	1: 8.4	4	1: 9.6	1	1: 5.8	5	1:10.4				1:10.6
200	2	2:21.6	3	2:23.6	4	2:26.4	1	2:19.8	4	2:26.4				2:28.6
300	2	3:37.4	3	3:41.0	4	3:45.2	1	3:36.8	5	3:46.0				3:49.2
400	2	4:54.4	3	5: 0.0	4	5: 3.8	1	4:53.6	5	5: 5.6				5:10.2
500	2	6:12.6	3	6:18.6	4	6:22.8	1	6:12.2	5	6:26.8				6:33.4
600	2	7:30.8	3	7:38.2	4	7:43.0	1	7:30.4	5	7:48.4				7:55.8
700	1	8:48.6	3	8:57.4	4	9: 2.8	2	8:49.6	5	9:11.4				9:18.8
800	1	10: 6.2	3	10:17.8	3	10:22.4	2	10:11.8	5	10:33.0				10:39.6
900	1	11:24.2	3	11:36.8	4	11:42.8	2	11:25.4	5	11:55.8				12: 1.8
1000	1	正式 12:44.2	2	12:56.0	4	13: 3.0	3	12:59.0	5	13:18.0				13:21.6
1100	1	14: 4.2	2	14:15.2	3	14:22.8	4	14:23.0	5	14:39.8				14:43.8
1200	1	15:24.2	2	15:35.4	3	15:43.6	4	15:46.6	5	16: 1.8				16: 5.4
1300	1	16:43.8	2	16:55.6	3	17: 3.4	4	17:13.8	5	17:23.6				17:27.2
1400	1	18: 4.6	2	18:16.0	3	18:23.2	4	18:37.2	5	18:45.0				18:48.2
決勝計時		19:21.8		19:34.4		19:41.8		19:53.8		20:1.2				20:31.4

途中計時の前の数時は各距離に於ける途中着順

参考に豫選途中計時表を掲げる。

選手名	天野	本間	宇田	高橋	田中	越戸
組	B	C	B	C	A	A
水路	5	6	4	5	5	6
100	1: 7.4	1: 9.6	1: 9.6	1:11.0	1: 8.2	1:10.0

200	2:22.4	2:25.4	2:25.8	2:29.6	2:24.8	2:26.8
300	3:39.6	3:42.8	3:44.0	3:50.0	3:42.4	3:45.8
400	4:56.8	5:0.8	5:3.2	5:10.0	5:10.6	5:6.6
500	6:15.4	6:18.8	6:21.6	6:31.0	6:22.6	6:28.0
600	7:34.4	7:27.6	7:41.4	7:53.8	7:42.6	7:50.6
700	8:54.0	8:56.4	9:21.0	9:15.4	9:3.2	9:13.0
800	10:14.2	10:15.8	10:20.8	10:36.8	10:21.4	10:35.4
900	11:33.8	11:36.0		12:0.6	11:43.0	11:57.8
1000	12:54.4	12:57.6	13:0.4	13:25.6	13:4.6	13:21.2
1100	14:13.4	14:18.8	14:21.0	14:50.2	14:22.8	14:43.8
1200	15:33.4	15:40.2	15:42.4	17:15.0	15:46.6	16:6.8
1300	16:53.2	17:1.6	17:3.6	17:40.0	17:8.6	17:29.4
1400	18:15.4	18:22.4	18:24.6	19:5.0	18:31.2	18:51.8
1500	19:32.8	19:40.8	19:43.8	20:21.2	19:53.8	20:10.8

四着迄十九分臺のタイムを揃える所日本長距離陣偉大さを謳歌せざるを得ない。オリンピック千五百の全勝が今度は現実となる事であらう。

女子競泳

女子競泳はオリンピック出場見込なしと云ふ爲か低調であつた。選手が早く第一線より退陣する所に向上しない第一の原因があると思ふ、中等學校選手と若干の専門程度の選手及び同年齢の選手を以て成立つて居る現在の選手陣としては行きつく所までは行つて居ると云へる。もしオリンピック出場可能とあればそれがもう少し強化されたであらうと云ふことだけは云へる。女子水泳の水準を更に一段上げる爲には現在の中等選手を主力とする所より、専門程度を主力とする所まで一步踏み出さねばならないと考へる。今一つは小學の強化及び中等學校のよき連絡である。

女子百米自由形決勝

- 一着 井上 三代 (愛知第一) 1:18.0
- 二着 永田喜好子 (舌津高女) 1:19.0
- 三着 吉田ミチ子 (吳精華女) 1:20.2

二十一、二秒が水準では淋しい気がする。

女子四百米自由形決勝

- 一着 三鬼百合子 (土肥高女) 6:5.2
- 二着 梶田 宏子 (愛知淑徳) 6:10.0
- 三着 古田つね子 (女子體專) 6:16.2

昨年の選手權保持者三浦ハナさん病氣缺場の爲、宿敵と一戦を交えずして三鬼さんの優勝となつたのは物足りなかつた事と思ふ、昨年の六分一秒四を破つて居ないのは更に物足りない。五分台が續々出なければいけないと思ふ。

女子五十米背泳

- 一着 伊藤さとし (女子體專) 40.0
- 二着 保手濱政子 (土肥高女) 41.6
- 三着 廣田喜久子 (兵庫二女) 41.6

女子百米平泳決勝

- 一着 南里千瑳子 (兵庫二女) 1:33.6
- 二着 中山 絹子 (無) 1:33.6
- 三着 野中喜美子 (東京第四) 1:33.6

就れも中等選手と卒業選手との間に激烈な仕合が行はれる所は面白いが、卒業選手が練習の機會と熱と失つて思つた程其後延びて居ない事を示すもので残念でもある。背泳五十、平泳百は此の如く混んで來た事であるから最早種目として不必要なのではあまるいか。

女子百米背泳決勝

- 一着 伊藤さとし (女子體專) 1:26.8
- 二着 飯島 富子 (無) 1:27.0
- 三着 廣田 幸子 (魚津高女) 1:31.0

古い日本記録で然も飛切よい記録でもない一分二十五秒一がいつまでも破れないとはどうした事か。

女子二百米平泳決勝

- 一着 中山 絹子 (無) 3:18.4
- 二着 天野 主子 (吳精華女) 3:20.0
- 三着 南里千瑳子 (兵庫二女) 3:21.8

世界の水準の最低に割込むのでも三分十秒を切らねばならない、今少しの精進を望む。

女子二百米自由形決勝

- 一着 三鬼百合子 (土肥高女) 2:50.4
- 二着 古田つね子 (女子體專) 2:54.6
- 三着 井上三代子 (愛知第一女) 2:55.4

かくて今年も選手出生地が擴がり其數が増したと

云ふ點では喜び得るが記録的により高きを見出し得なかつた結果となつた。

飛込競技

飛込競技は三日間に互り午後行はれた。

男子飛板飛込決勝

リストアツプ二十三名による豫選を経て決勝の結果は

	規定飛	選擇飛	合計
一等 柴原 恒雄(日大)	66.62	93.01	159.63
二等 小柳 富男(稻泳會)	65.24	91.59	156.83
三等 久保 欣治(稻泳會)	55.10	79.58	135.22
四等 高濱 武(日大)	58.50	73.59	132.09
五等 毛利 元英(日大)	54.72	72.56	127.28
六等 加茂 正美(稻泳會)	53.84	70.30	124.14

決勝六位迄日大、稻泳三人宛で、慶應の敗退の觀がある。矢張、柴原小柳の兩雄相喰む所盛觀で、以下少し段がある。小柳に少し失敗があつたので、點に開きがついたのみで最早技倆伯仲である。然も、點の辛いと云はれる日本の審判員により、殆ど百六十點を取ると云ふことは世界の最高標準を行くことを物語つて居る。此二人はオリンピックでは優勝候補に數へられるであらう。

男子高飛込決勝

	規定飛	選擇飛	合計
一等 小柳 富男(稻泳會)	53.78	68.39	122.17
二等 柴原 恒雄(日大)	50.46	64.32	114.78
三等 高濱 武(日大)	44.77	54.29	99.06
四等 久保 欣治(稻泳會)	39.77	54.29	94.06
五等 北田 舜次(慶大)	45.18	41.70	86.88
六等 永原 隆(稻泳會)	37.88	43.53	81.41

高飛込に於ては小柳の方が得點多く選手權を伸よく分持つこととなつた。續く人々は餘程進歩した事は事實であるが技術に於ては少し段がある。

女子高飛込競技

大澤禮子さん病氣の爲に振はなかつた事は残念であつたが大澤政代さんの怠らぬ練習は追々大選手の風格を具へ、好成績で飛板、高飛双方の選手權を揃へて獲得した事は褒めねばならない。立松さんが東京に住所が移つた爲か著しい進境を見せ、大澤選手に伍する力を具へて來た事は心強い次第である。

女子飛板飛込決勝

	規定飛	選擇飛	合計
一等 大澤 政代 (鑛山機械組合)	47.46	54.58	102.04
二等 立松 文子(成女高女)	47.04	53.91	100.91
三等 光永 和子 (常盤松高女)	43.78	48.12	91.90

四等 田中 キヨ(第六高女)38.00 46.69 84.64

女子高飛込

一等 大澤 政代(鑛山機械組合)	37.77
二等 立松 文子(成女高女)	36.19
三等 光永 和子(常盤松高女)	36.14
四等 大澤 禮子(精美會)	35.46
五等 田中 キヨ(第六高女)	32.92



岩切盛行記念牌

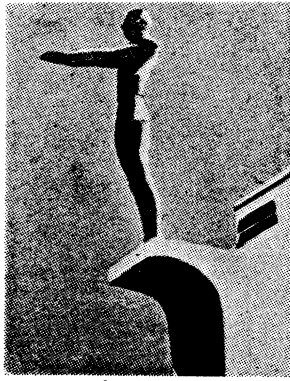
支那事變勃發するや勇躍戦地に出征した元明治大學水泳部飛込選手岩切盛行氏が雄々しくも彼地中支に奮戦し然して我皇軍の華と散つた其勇猛なる盛行氏の生存に於て我國水上競技界に残したる足跡多大なるを記念すべく此所に陸軍大臣の揮毫による明朗果敢の牌を以て我國男子高飛込選手權種目の優勝者を表彰する爲に作られたものであつて猶之は故岩切盛行氏の嚴父岩切榮三氏により我日本水上競技聯盟に寄贈されたものである。

水球

出場チームは慶應大學、同三水會、稻泳會のA、B組、日大立教聯合軍、明治大學、今宮中學の七チームであつた。今宮と稻泳B組の試合から始まつたが、之が物凄い泥試合となり、初めから波亂を呼ぶ。日大立大混合軍は其泳力を利用して優勝候補稻泳會A組を惨々悩まし當初は番狂はせを演ずるかと思はせた、結局、慶應A、B、早大A、B組が残り、最後に早慶、A組の決戦となつたが慶應の慎重にして水を漏さぬ堅實さに強引の稻泳會も策の施し様なく榮冠は遂に慶應の上に輝いた。オリンピック不出場に稍力抜けの氣配あつたにしろどの試合も見應えのある試合であつたと思はれる。

本大會はオリンピック豫選であつたので終了後選手の選衝が行はれた。

新井、宮本、田中、高橋、天野、吉田、兒島、葉室、大浦の九選手をオリンピック正選手に遊佐、佐々木、杉浦、牧野、鷺谷、津田、本間、片山、宇田、谷口、野田、古川の十二選手及び柴原、小柳の飛込選手をオリンピック候補選手に選んだ、堂々たるチームである。猶、日本學生聯盟大會に於て追加される筈。



水泳團體設立を提唱す

米國オリンピック水上軍

副監督 Steve Forsyth

小山賢之助 譯述

「米國では未だ本當の競泳を始めては居ない」

『Saturday Evening Post 七月二十二日號でラルフ・フラナガンの育ての親であり、伯林の米國水上軍の副監督であつたステーヴ・フォルシスが上記題名の下に日本の水泳が世界に冠たるのは實に NSR があるからだと言ふと斷じ、米國には之に匹敵する團體が無い爲にロサンゼルスに城下の誓を結び、又伯林で惜敗したのでであると述べ、水泳團體の設立を提唱してゐる。その結論の正否は兎に角として、メイカ、フラナガン等の米國選手が茲に譯出したやうなハンデイキャップの下に苦心してをてゐるとするならば、若し米國に NSR の如きものが生誕し彼我同一のコンディションの下に相戦つた場合には日本危しと感ずるのは豈譯者一人のみの杞憂であらうか。秃筆を珂して我選手諸君に一讀を乞ふ所以である。』(譯者)

1 日本水泳軍は何故強いのか

忘れもせぬ一九三六年八月七日の事であつた。伯林オリンピック水上競技も眞近に迫り、我々米國水上チームはオリンピックプールに最後の練習に出掛けた。丁度プールでは好敵手日本チームが仕上げをなして居る時であつた。レースコースを引くべくプールの一端に立つたのは中距離のエース鶴藤である。我々は固唾をのんで彼の泳ぎを見守つた。彼は水上飛行機の如く驀進を續けて我々の豫期に優る好調裡に四百米を泳破した。密かにストップオッチを握つてゐたマネージャー、ケネディは「四分四十一秒」と感嘆の聲を放つた。「僕のも」とヘッドコーチキツパスが呻いた。選手一同は暗然と頷くのみである。あのロサンゼルスホームプールに於ける我々の惨敗——日本チームに対する我々の恐怖——が目に浮んで來た。伯林に於ても又再び「日本の魔術」にしてやられるのであらうか。

日本人はどうしてかう強いのだらうか。ロサンゼ

ルスでは酸素吸入をするからとか日本式クロールの爲だと言ふ噂があつたが、伯林では大豆を食ふからだと言ふ眞面目に思ひ込んで居る人々が多かつた。一夕私は日本選手の合宿に大豆の有無を見に行つたがそこには一羽のカナリヤを養ふに足る大豆も見當らなかつた。では「日本式クロール」だらうか、否、否、彼等の泳ぎを見るがいい。正真正銘の六ビートのアメリカンクロールである。日本式クロールといふものは存在しない。彼等は我々の泳法を以つて我々を破つて居るのである。

元來アメリカンクロールを大成したのはバクラッチであつて、ワイスミューラーは之を短距離に實現し、フラナガンは之を長距離に實現したのである。兩者の相違は頭部胸部の位置の高さにある腕の掻き方、呼吸のつき方兩者全く同一である。私の意見によればフラナガンはアメリカンクロールの典型を爲すものである。之に對して日本選手はピッチを上げる必要上腕で伸びをとらず頭の側から眞下に突込んで直ちに掻き去る爲に呼吸を犠牲にして體力を早く消耗し盡すやうである。北村久壽雄が此適例である。一九三二年のオリンピックに於て當時十四才の彼は千五百に優勝したが一九三六年には體力を消耗し盡して日本代表選手にも成り得なかつた。(譯者註之は全く事實無根である)

フラナガンの泳ぎを見よ。彼のストロークは大きく、十分に呼吸してスルスルと滑つて行くではないか。

然らば我々が自ら發見し自ら完成したストロークを用ひ、之を完全に行つて居るにも拘らず勝ち得ないのは何故だらうか。又日本人は如何にして我々のストロークを略完全にマスターしたのであらうか。

答は簡單である曰く、「日本には世界最大の水泳團體——NSR があるからだ」

2. 日本水上競技聯盟 (NSR)

NSR とは何か？ 夫は水泳の普及發達、泳者の育成をのみ目的とした團體であつて、その理事は盡く水泳のエキスパートのみから成つてゐる。之に反し米國ではどうだらう。水泳も他の競技と全様 AA

Uの司る所である。AAUは衆知の通りトラツクフキールド、レスリング、拳闘其の他の諸競技のエキスパートを集めた寄合世帯である。水泳の發達、泳者の養成は多數の目的の中の一つである。之では斯道の發達は望み得べくもない。米國をして水泳の王座を奪還せしむるものはAAUより獨立した水泳團體結成の一途あるのみである。我々はアメリカンクロールを發明した。我々は又水泳に關する深い智識と長い經驗とを有してゐる。又全米には有望なる素質に恵まれた豊富なる人的資源がある。只一つの缺けたるもの、それはAAUより獨立せる水泳團體である。

元來何競技に限らず大選手を養成するには随分金がかかるものである、現在の米國では水泳選手の養成は我々が個人的にやつて居るのであるからその費用は全部我々のポケットマネーをはたいて出してゐるのである。それにコーチも人間たる以上食はねばならないから已むを得ず大學又は水泳俱樂部に職を求める。その結果勝利のみを目標とするから選手権を目指す既成選手の進歩のみに全力を盡すこととなつて、全くの處女地ともいふべき小少女の育成に迄手を廻し得ない。然るに日本ではNSRは網の目の如き組織網を持ち全国各地至る所にプール若しくは海岸を持ち、指導者を持つて居るのである。従つて水泳は既に日本國民の趣味と化し、選手の養成は無論の事、國民の大多數が健康の爲に享樂の爲に水泳をなし、水上競技の愛好者となつて居るのである。

NSRは選手の養成をなすと同時に國民に趣味としての水泳を普及し、國民の體位を水泳によつて向上させるといふ大なる事業を爲して居るのである。

然かも之が全くの私的團體であつて政府の事業ではなく、又政府から補助金を受けてゐるのでもないといふ事は全く驚異に價する。

明治神宮プールには一萬餘の觀衆を收容するスタンドがあるが國際試合は無論の事、インターカレッジ、日本選手権大會には收容し切れない程の水泳愛好者が詰めかけて聲援を惜しまない。甚しいのは夜の試合に辨當を持參して朝からつめかけ一般席の座席を爭奪するといふ有様であつてNSRはその事業費を之等の水泳愛好者の支拂ふ入場料を以つて支辨して居る。

明治神宮プールは近代の水泳智識と建築技術とを綜合して作られた世界有數の模範プールであつて完全なる夜間照明を有するのみならずコルクで浮かせたコースロープ、水底に引かれた白線、泳者はフルスピードを出しつつ尙コースの調整が出来るのであ

る。この種の大プールは最近大阪にも作られた。一九三七年日本よりの招きにより應じて渡日したスタン・ブラウニングは狭い國土全體に壹千個以上も競泳用プールが存在し、各プール共に少年少女で充満し然かもそれが正規のトレーニングを受けつつある状況に一驚を喫したのであつた。中にはプールの横面及び底面が硝子張になつて居て、コーチが泳者のフォームを水面及び水底から匡正し得る如き設備のあるプールもある。然かも、何たる皮肉だらうプールの建築技術及び材料は何れも日本がアメリカより輸入したのもののみである。我々は日本の爲に、我々のストローク、我々の建築技術を逆用せられ敗戦の憂き目を見てゐるのである。

3. 米國の水泳界

然るに我米國の水泳界は如何

或る地方にはコーチは愚か全く水泳施設のない所がある。又各洲から全米選手権大會へ出て來るのも全く個人の負擔であつて、相當の成績を収めた者が更に仕上げをしようと思つても自分の洲に居ては適當なコーチが無いのが普通である。従つて選手は幾週間かの練習の後コーチの居る所へやつてきて仕上げをしなければ選手権保持者たり得ないのであつてこの間の費用は全部選手個人の負擔となつて居る。

監督に至つては更にひどい。私は伯林オリムピックの副監督に選ばれたけれども伯林迄は全く自費で出掛けたのである。又米國チームがオリムピック後波蘭に遠征するといふので之を引率する役目を仰せつかつたが此の爲に私は乏しい財布から更に三百弗を支拂はされたのであつた。

4. 伯林遠征チームの苦心

又遠征チームの状況も決して恵まれたものではなかつた。

日本では既に五月初旬選手團を結成し一ヶ月の訓練の後伯林に向け出發し六月下旬には早くも伯林に到着して試合迄五週間の長きに亘つて調子を整へる事が出来たのである。然るに米國では七月十二日に漸く最終豫選が終り十四日に選手は船に乗込んだのであつたからヘッドコーチ、キツフスは波止場で始めて選手團と相見るといふ状態で、選手の決定と乗船の期日が近迫してゐる爲にユニフォームが間に合はないといふ始末である。然かも船中の小プールに男女の飛込選手水球選手男女競泳選手がひしめき合つて泳ぐのであるから全く練習不可能と言つても過言ではない。「この小プールはラツシュアワーのタ

イムズスクエアだ」と誰かが言つたが全くお話にならない、かくて七月二十四日夜伯林に到着した。あと練習の日数は僅かに十二日である。

翌日から練習をしようとしたが、ヘッドコーチキツフスは選手をオリムピツク村に割當てるのに忙しくてとてもコーチが出来ない、一行に先立つて此の種の雑務をやつてくれる人が来て居なかつたのである。

選手の練習にはオリムピツクプールを各國で一時間宛使用出来るやうに割當てがしてあつた。然し米國チームが練習を始めた頃には既に各國選手が到着してゐて、この一日一時間の練習がフルに出来た事は稀であつた。又、この割當てが午後八時にあつたり、割當の時間が不明だつたりして不自由な事夥しく、おまけにプールに行くのに四十分バスに乗るのであつたが之が又、各國選手で混雑してゐる爲に伯林市の交通は痲痺状態にあつたので全く動きがとれず市の内外を出入するには随分と骨を折らされた。

日本は之と全く事情が違つて居た、各國選手が来てオリムピツクプールが人の山を築く頃には三週間も前に来た彼等は既に十分に練習を積んで居たのみならずプールが混んでくる事を賢くも豫測したNSRでは豫備に室内プールを借りておいたので選手は裕裕と一日二回宛の練習をなし我等が伯林に着いた時には既に驚くべき好調の波に乗つてゐた。然かも彼等は自國専用のバスを持ち自由に伯林の内外に出入してゐるに反し、我々はつまらぬ事で時間を空費させられ選手團の意氣は消沈する許りであつた。

それでもフラナガンは一行の中では餘程よいやうであつたが、今鶴藤の四分四十一秒を目のあたり見て、當時十八才の彼は非常なショックを受け強度のスランプに陥つてしまつた。

之に反し諸條件が悪化すればする程益々闘志を燃え上らせたのはメデイカであつた、私は今迄に彼程闘志の旺盛な選手を見た事がない。彼は黙々として一言の批評をもせず必勝の決意を胸に秘めて自己のフォームを取戻すべく努力を續けて居た。

愈々大會當日となつた、鶴藤は豫選に於て四分四十五秒四のオリムピツク記録を樹立し幸先のよいスタートを切つた。メデイカは準決勝に於て牧野と大接戦を演じた、豫選に於けるオリムピツク新記録、練習に於ける非公認世界記録、と考へてくる時鶴藤が恐らく優勝するであらうと豫測された。

決勝のコース順が發表された、果然メデイカは鶴藤とコースを隣り合せて居る。強度の近視眼である

メデイカにとつては天與の好條件である。若し此時もう一コース離れて居たならばメデイカには鶴藤が見えず或ひは勝敗が逆轉してゐたかも知れない。

鶴藤は飽く迄勝たんものとメデイカを約六呎リードしつゝ戦を有利に進めた。然し、實に然しである。三百五十米を過ぎるやメデイカ俄然スパートし見るうちに鶴藤の肩に迫つた。この豫想外の強襲に鶴藤は心の平靜を失つたかフォーム亂れゴール前十呎でメデイカ之を見事に抜き去り優勝の榮冠はメデイカの頭上に燦として輝いた。

タイムは四分四十四秒五、オリムピツク新記録である。好漢メデイカの健闘よく米國の爲にタイトルを奪取したのであつたが米國は之以外にキーファーが背泳に優勝したのみで日本に敗れたのである。

我米國チームにはオリムピツク種目の世界記録保持者を四名も持つて居た。フィツク(百米 56.4)メデイカ(四百米 4:38.7)ケズレー(二百米平泳 2:37.2)キーファー(百米背泳 1:04.8)即ち之である。然かも獲たる選手権は僅かに二個。日本チームにはオリムピツク種目に世界記録を持つ者は一人も居ないのに拘らず三個の選手権を獲得し再び男子競泳の覇權を握つた。米國の敗因は選手の側に非ずして全く準備の不完全より来る練習不足に基くものであつた。

5. 全米選手権大會の狀況

諸君の中には或ひはかういふ人があるかも知れない、「オリムピツクに選手團を引卒して海外に遠征するのは非常に困難でアマターたる以上職業選手の如くに十分な膳立をして樂々と競技をする事を望むわけには行かない」と、それでは私は國內に於ける出来事を報告しよう。それは一九三七年九月シカゴで行はれた全米選手権大會の事であつた。

大會はミシガン湖に面したバーンハムラグーンで行はれた、御承知の様に九月ともなればミシガン湖は冷えて湖水を渡つて吹いて来る風は肌をさすのである。

大會の前日飛込の選手が私の所へやつてきて言ふのに、「飛板が未だとりつけてありません、又高飛込の塔には板が打ちつけてあつて使へません」と。私はプールに出て見た、成程其通りである。飛込は然かも第一日にあるので AAU に交渉したが埒があかない、結局設備が出来たのは大會の最終日で飛込選手は全然練習をせずに全米の選手権を争奪したのである！

競泳池の設備も亦不完全極まるもので、スタート臺が水面から二吋しかない。之では泳者が確實に一

秒損をする譯である。そしてスタートの時に泳者が揃つて臺を蹴ると臺が沈むものだから競技役員、コーチ等は將に蹴らんとする時にはあわてて岸の方へ退却せねばならない。又奇抜だつたのは二百二十碼平泳の時である。キツフスはプールの向ふ側にインスペクターを配置してゐないのに氣がついてAAUの地方委員長に注意した所、平然として彼の曰く「私が茲から見張つて居るよ」と、如何にセンターは五十碼先にあるのだ。スタート臺からインスペクトなど出来る筈がない。

尙又選手の爲に不幸なことには全米選手権大會だといふのに事前の準備が悪い爲に新聞紙には一行の記事すら載つて居ない。従つて入場無料といふのにスタンドには觀衆が僅か二百名足らずといふ惨な有様である。

全米の各地より集つた野心満々たる青少年達は幾週間の苦しい練習の功空しからず各地豫選會を通過し、晴の選手権大會に出場すべく時間的に經濟的に少なからぬ犠牲を拂つてシカゴ目指して集つて來たのである。然るに之を迎へるものは此の不完全なる會場、水泳の智識皆無の競技役員、加ふるにこの少數なる觀衆である。之では全く水泳の進歩發達は望む方が無理である。

此の大會でフラナガンは實にあの素晴らしい一哩の世界記録二十分四十二秒六を出したのである。(譯者註、此大會の役員は餘程素質が悪かつたらしくこの世界新記録はFINAの公認を得てゐない、従つて此種目の現公認世界記録は依然一九三四年メデイカが作つた二十分五十七秒八である)この世紀の一哩を見た觀衆は僅かに百名にも満たなかつた。更に悪い事には彼はあの低いスタート臺で約一秒を失つたのみならずターニング毎に約三米を損したのである、といふのは此の競泳池は一九三三年に選手権大會が舉行せられて以來一度も掃除せられた事が無かつたので苔が密生してズルズルに滑る爲に、ターニングの壁面を蹴つても二米位しか行けないのである。

オリンピック飛込のコーチ、ピツクストンが「ラルフをロサンゼルスオリンピックプールで泳がせれば見事な一哩を泳いだらうに。」と嗟嘆時を久しうするのも無理はない。

このツルツルの苔に懲り懲りしたフラナガンは翌日四百四十碼に大記録を作る野心があつたので之に備へて藁を持つて誰も居なくなつたプールに出掛け、日が暮れて冷え却つてくる水の中に首迄浸り乍らゴシゴシと苔を取り始めた。

全米の覇者ともあらう大選手が慄え乍らプールの壁を磨く光景を想像して見るがいい、かうなると悲惨を通り越してむしろ喜劇じみてくるではないか。

所が彼のこの苦心も水の泡となつた、翌日になつて見ると折角苦勞して滑りを止めたコースには他の選手が立つて居る。彼は昨日コースの順番を數へ損つたのである。泣き面に蜂と言つた形でフラナガンは二米しか蹴れない壁面のコースで泳がねばならなかつた。かうした不利な條件にも拘らず彼は三百米に世界新記録を作り四百米に自己の保持する米國記録を短縮した。

この大會の翌年即ち昨年全米選手権大會はルキスヴィルで行はれたが之が又何と、温泉プールで、水温正に八十度、將に「よう言はんワ」である。

6. 結 論

水泳のエキスパートよりなる水泳團體が結成せられないとすれば如上の悲喜劇は將來再三繰返されるであらう。泳者のみによりにて成立し、泳者のみによりに統治せられ、泳者の利益、水泳の發達、の爲にのみ存在する水泳團體が出来て居らないといふことは未だ我々が本當に競泳を始めては居ないといふ事である。AAUより獨立した水泳團體が出来てこそ始めて我々は競泳を本當にやつて居るといふ事になるのであつて、その時にこそ我々は日本を破り得るであらう。

私は茲で我々は日本を破り得ると斷言して憚らない。伯林ではメデイカ、キープアーがその可能な事を證明して呉れた。

フラナガンも今やその好調の波に乗つて來た。彼の實力を以てすれば二百碼以上の中長距離の全種目に世界記録を作る事も恐らく困難ではあるまい。

又米國各地には野心満々たる青少年がオリンピックを目指して精進を續けてゐる。人的資源に於ても我々は日本に劣るとは考へられない。

只一つ残されたことは水泳團體の結成である。之が出来てこそ初めて我々は競泳を本當に初める事となるのである。

(附記) Saturday Evening Post は發行部數百萬と號し名の通り週刊雑誌で我が週刊朝日サンデー毎日に相當するが之よりもずつと發行部數が多く、色刷八十頁の美本でその價僅かに五仙、ベンチャミンフランクリンの創刊以來大衆に親しまれて居る、恐らくフォルシスは之を以つて米國大衆に窮狀を訴へんとしたのであらう。本誌は特に此の記事のある爲に紐育のJapan Institute及び布哇の日布時事から寄贈を受けたものであつて誌上を通じ厚く御禮を申上げる。



女性と水泳

白山廣子

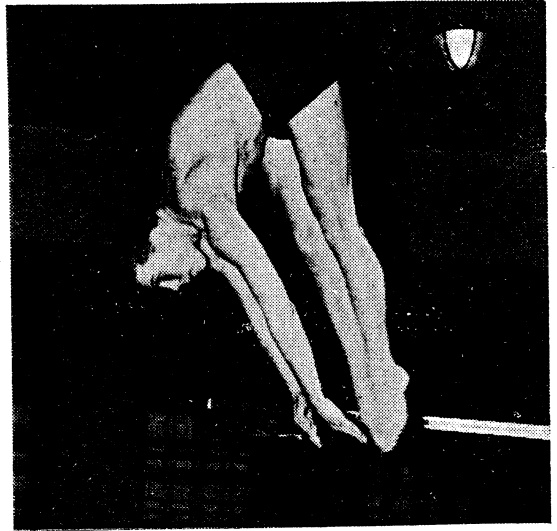
「子供に合理的に水泳を教へる様日本の全ての母親に願いたい。」とのお言葉が有りましたが誠に御同感に存じます。水上聯盟の「國民皆泳」は小學校兒童の目覺しい運動によつて年々に實現されて居り、今年亦同小學校聯盟より簡易で面白い「水泳讀本」の發行を見、内外共に充實して參ります。若人青年には又銃後の訓練として水泳も重視せられ、昨夏神宮大會に於ける青年團實業團の活躍にも見えて力強い事に思はれますが、此處に危く一人取残されたのは女性の持場ではないでせうか。水泳が女性に最も適した運動である事は誰も知る事ですが、夏毎に増す鮮かな海水着や水泳帽の氾濫は必らずしも女性水泳熱の表現ではない事は海濱に見る鮮かな金佛女性方の艶かしい社交振りにも伺はれて心ある銃後女性の寧ろ顔を背けさせる物があります。其等の女性は別として眞に健康兒を世に贈り、意氣と張りのある青年子女を作らねばならぬ今後の日本女性に取つて水泳が又どんな大きい役割を持つて居るかを思へば眞剣に、美容體育の域を越えた保健運動としても普及を女性自からの努力で考へられねばならぬと存じます。「生めよ殖やせよ」の掛聲は余り、品のよい響きではありませんが泳ぎをすると冷えて體に悪いでせうとは食はず嫌ひの人々の言葉でせう。私共が水泳を始め、夢中になつて競技界を暴れ廻つて居た大正十二三年頃にはよく心ある御母様方の御注意を聞かされたものでした。體を作る爲に、京都の武徳會へ府縣前から美川ダムまで毎日弟と二人歩いて通はせられた自分等も、メツキリ體は丈夫になり、風邪さへ引かなくなつた事、又精神的にも横道に反れる隙をも與へられなかつた事は確かに深い感謝ではありましたがさて「不産女」、「三年子無きは去る」等の不運な言葉を考へては何くそと消し飛ばし度い意地はあつても、流石に競技會に望む時の様なあの張切つた自信や相手に對する迫力と云ふ物は持てませんでした。そして後、學理的にない説明は勿論其頃の河童仲間等が人では皆例外なしに三人四人の優良兒の立派な母となつて居る事は實事によつて増々意を強ふし最後の勝利を誇る心持が致します。

又女性の月々の生理の變化に對しても何等障害のない事は多くの選手達が立證する所であり、又醫學上からも平常の運動と大差ない限り其期間中でさへ泳いでも何等支障のない事を説明されて居ります。此處に大きいしかも大切な二つの不安は取除かれる事になり、水泳が女性に取つて偏頗に渡らぬ合理的な全身運動の最も良きスポーツである事を一層強く主張し得られる事になりました。

只此處に女性の努力と云ふ事は男子に比べて水に入ると云ふ事の幾分億劫な點であると思ひます。第一着物、第二頭髮、第三化粧、第四水泳場、此等の條件を突破するには女學生は其點最も恵まれた立場に有ると思はれますが一般女性に取つては相當の努力を必要とされませう。着物は追々洋服や簡單服に代つて從來の氣苦勞は除かれたにしても、頭髮、化粧の心使ひは女性に取つて或點までは棄て難い身嗜みとせねばなりません、此を上手にまめやかに處理する努力が一つ、もう一つ大きい將來への努力は女性がつと自由に楽しめる水泳場を世の人々に訴へて設備させる程に女性自からが運動を起すべきだと思ひます。折角女學生時代に楽しんだ水泳も家に入り職業に着いた爲にとて棄てて了ふのは己の爲にも亦國家の爲にも大きい損失だと存じます。女學生時代の様な規則的な生活の兎角出來にくくなる一般社會の女性に取つて、自からの健康を保持する事は吾々の非常な心がけに俟たねばなりません。尙今日では男兒と等しい人數の小學女兒等が國民皆泳の主旨に則つて近年目立つて殖えた各小學校のプールにも活々とはね廻つて居ります。此等の女性等を將來何處に收容する事が出來ませう。最近折々の話題に登る防空設備に大切な防火水槽とプールの兼用説、幸ひ此様な物が工場の空地にデパートの屋上に設けられて不斷はプールとして此等一般婦人や職業婦人等の身心鍛鍊の爲にも公開提供される日が實現されればどの様にか意義ある事に思はれます。それと同時に私共些かでも水に縁ある者等も喜んで指導の任に當る用意を持つて居る事を公にして筆を擱く事に致します。

飛 込 雑 感

日本水上競技聯盟 原 秀 夫



☆柴原 小柳の兩君は實に巧くなつた、と同時に益々兩者の飛込の相違が判然として來た、勿論この二人が今一段上達すれば柴原型、小柳型と云ふのが出來上るに相違ないが、現状では一體誰に似てゐるのだらうかと考へて見た。すると伯林大會の時の選手には誰も見當らない、結局羅府大會の覇者であるタロチ、スミス、ミツキイ、ライリーが浮んで來た。そして柴原はスミスに小柳はライリーに似てゐるらしい。

だから小生の考へに依ると、柴原はもつとスミスの飛込を研究して之に近づき、小柳はライリーの特長を良く考へてそして各々が彼等より以上に抜ければ、世界の柴原、小柳になるのだと思ふ。

☆此間雑誌「ローンテニス」の九月號で小泉信三氏の『テニスの上達』と云ふ小文を讀んだ。それに依るとテニスは、野球・水泳等よりも數段上達するのに時間が掛る。然しその變り非常に長續きがする。そしてそれ故に毎日々々コートで無暗矢鱈に球を打つ練習は、それも非常に良い事ではあるが有効適切とは云へない。外國ではプロコーチの指導による練習を甚だ効果的に行つてゐると書いてあつた。

此れが又、飛込についても相當似てゐる點がある様に思へる。飛込と云ふ奴も、巧くなるのに實に時間が掛る。中には小柳君の様に天才的な選手もあるが、柴原君にしても女子の大澤姉妹にしても、既に飛込を始めてから、十年餘りになるだらうが、未だ未熟な點が甚だ多い、そして最近練習法が次第に考へられて非常に合理的になつて來ては居るが、選手の連中に云はせると、誰かコーチが慾しいと何時も望んでゐ

る、先輩諸兄、何んとか仕事の暇を作つて選手が最も合理的な有効適切な練習を出来る様にして貰へないだらうか。

☆大分話は古くなるが先年來朝した、米國の飛込コーチ、ピンクストンは飛込の練習法について次の様に云つてゐた。

米國では選手を造り上げるのに大體、三年計畫でやる、即ち、最初の一年には陸上の飛板で、板の踏み方、使ひ方及び助走——踏切の練習のみをやり、水には飛び込ませない。次の一年には、一米飛板で基礎の四種目（前飛、後飛、後踏切前飛、前飛(蝦型)）のみを猛練習する、そして最後の一年目に始めて、三米飛板に移つて、種目を揃へて、競技に出して見る、『一體その様にやつて見て最初に合計點が何點位になりますか』『勿論選手によつて異なるが、大體百三十點位は出します』百三十點と云ふと、今の日本でも、五六位にはなれるわけだ。

インターカレッジの諸君、飛込を始めた當時、無暗に先を急いで種目等を揃へ、三四年たつて行きづまりになる傾向はありませんか。必ずしも米國の通りにする必要はないが、後進者の爲めに充分考へて戴き度い。

☆女子飛板飛込も、非常に巧くなつて來たが、選擇飛の種目が皆殆んど同様に、變化に乏しく、後から飛ぶ入程損をする様に思へてならない、もう一段奮發して、

A、後宙返り一回半（抱型）、B、走り前逆宙返り一回（伸型）、C逆途中宙返り、D、逆飛半回捻り等々を、練習して見る氣はありませんか。

（昭和十四年九月十日）

ジョニー・ミラー

ジョニー・ミラー氏は米國ペンシルバニア州カン巴拉ンダ溪谷にあるマーサスバーク・アカデミーの水泳コーチである。

同氏が此の學校に赴任したときは、學資金を辨済するために一年間だけ勤めるつもりだつたさうであるが其のまま居居つてしまつて今年で十五年になる。

此の十五シーズンの間に、同氏は其の水泳選手を多數に育成し、地方別の各競泳に出場させて、百四十回を勝ち、僅かに八回だけしか負けなかつたといふ好成績を擧げた。

此の學校は中等學校であるから、水泳選手の養成も大學選手などのコーチの場合と異つて、先づ身體を造りあげることに主力を注ぐ。だからして、同氏が行つてゐるところを見ると、十五歳乃至十六歳の少年の筋力を練つて、一日に千五百ヤード泳げるまでにするのが第一の教程である。競走の選手を作つてゐるのだから、自轉車乗りを養成してゐるのだから、體操選手にするつもりなのだから、一見してはわからぬやうな基礎體育を施すので、水泳選手になるつもりのもも、プールの中へは容易に入れて貰へない。

下圖に示すやうに、戸外の運動場の特別製のテールの上で、重量一ポンドの亞鈴を持つて、恰も水泳をする如く、兩腕と肩とを動かし、疲れて動けなくなるまで、猛練習をさせる之等も、その教程中の一つである。

亞鈴の外には送球戲もやらせるし、斷郊驅足もやらせる。ミラー



(上圖の綱を引くはジョニー・ミラー氏)

の競泳コーチ法

氏は自轉車に乗つて同行し、姿勢のわるいものや精神力の足りないものは、長い竹の棒で突いて注意する努力をはらふのである。

斯ういふ種々の基本練習を終つて、體力が水泳に適するやうになつてから、初めて屋内プールで泳ぎを教べる。然し、地上水泳の練習は依然として規則正しく練習前後に繼續されるのである。

亦プリンストン大學の新人との對抗競泳のときに、同氏が選手た

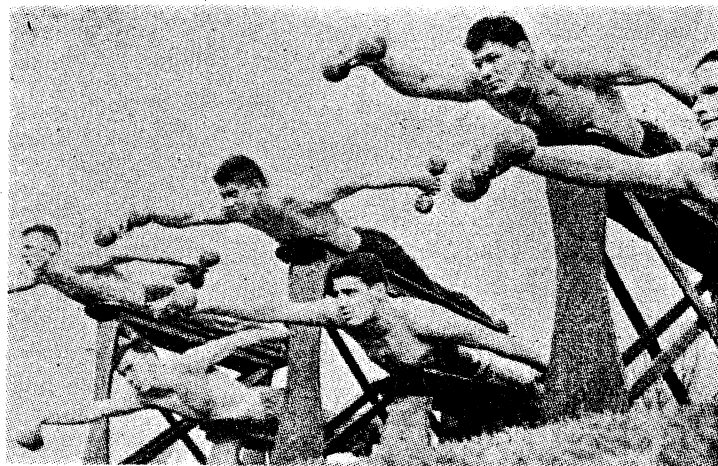
ちに出場の前に「蜂蜜」をあつて舐めさせたところが、そのおかげか否か、此の競泳ではマーサスバークの勝利となつたと言ふナンセンスをも持つて家る。

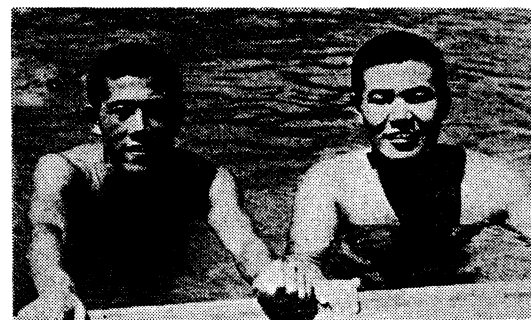
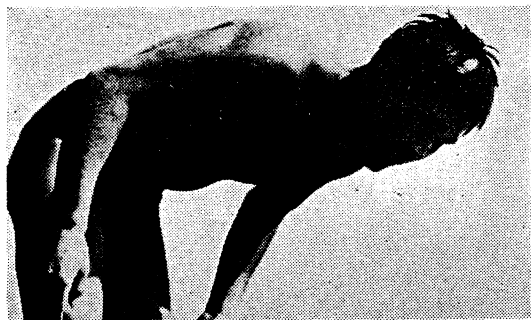
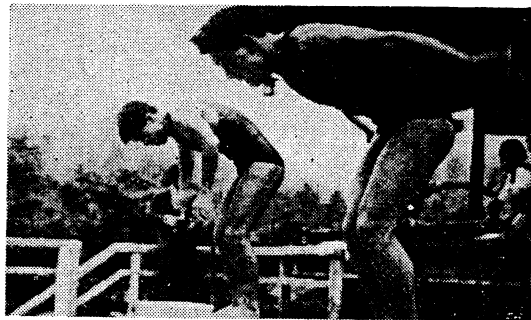
猶上圖は同氏が水泳をコーチしてゐるところで、同氏の創案になるプーパー・アウトターと稱するゴムと柔軟なベルトとを繼いだものを選手の腰に結びつけ、馬車の手綱を持つやうにして、その索引力のなだらかさや強さを試してゐるところである。レコードばかりを問題にせず、斯かういふ方法で泳力を築き上げるのがコーチの大きな役目である。

下圖の最上部に居る頸にお守りを下げてゐるのは本年の大ホープの一人でデイヴ・タイラーといふ身長六呎、十九歳の青年である。すでに短水路に於いて五十碼(二三・六秒)、百碼(五二・五秒)、二百二十碼(二分一三・六秒)

の中等學校記録を持つ新人で、一九四〇年オリンピック出場候補になつてゐる。

この様に只泳ぎレコードを取る事のみを以て選手の向上を計らず泳ぐ迄の基礎練習の大切な事を力説して居る點が注目に價する。





日光金谷ホテル 及、川奈ホテル プール開き競技會報告

日光金谷ホテル新設廿五米水泳場竣工記念競技會は八月廿日午後一時半から、亦川奈ホテル新設廿五米プール開きを兼ねての競技會は八月廿六日、午後一時より開かれた。金谷ホテルの参加選手は過日の日本選手権で選ばれたオリンピック代表選手葉室、新井、天野選手を始め候補選手谷口佐々木、本間選手、之に加へて女子の飯島、中山兩嬢、此他に地元の中等選手を交へての善き競技會で有つた。亦一方の川奈ホテルへは、新井、葉室、兒島、高橋のオリンピック選手の他、佐々木、谷口、長久、鶴藤、飛込の柴原、小柳、大澤姉妹等の参加が有り、當日は非常な好天にてはるか大島を右眼下に、左には初島を望め、熱海、伊豆方面より此プール開きに技を競ふオリンピック選手を見んものと集ふ観覧者千餘り、川奈ホテルのローンの上を埋めた事も特筆に價すべく猶川添社長の挨拶の後各競技に入つた。當日土地の豆選手、謂る小學選手の懸命なる泳ぎ、此中に元慶大選手小池禮三氏の弟有り、亦ミックス各競技の間に、男、女、飛込選手の妙技有りて観覧の諸氏を發聲せしむる等非常な盛會裡に閉會した。

概して水温のひくかつた事は兩プールを通じ共通した點でも有つたらうふし亦日本選手権後であり學生選手権をひかへての氣分的に丁度一息と言つた所でも有り、期待する記録を望む事は無理でもあり亦まづむづかしい事であつたが、然し、丁度幸い、我泳界の各種目を通じての至寶、新井、葉室、兒島の三羽鳥の揃つたを幸い、プログラムには無かつたが、三百メドレーリレーを番外に行ひ、然も此所に世界記録を得た事は本年度に於ける一ツの大なる收穫であつた。兩プールに於ける競技會記録結果は次の如く

日光金谷ホテルプール開き競技會記録

100米自由形	A組	佐々木(日大)	59.6
	B組	新井(立大)	58.0
200米自由形		新井(立大)	2:11.0
100米背泳	1	谷口(日大)	1:09.0
	2	坂本(立大)	1:12.0
50米背泳		谷口(日大)	31.8
500米自由形	1	本間(立大)	6:17秒
	2	天野(日大)	6:32.8
女子100米泳背		飯島	1:28秒
女子200米平泳		中山	3:17秒

川奈ホテルプール開き競技會記録

男子模範300米メドレーリレー-3.16.8 世界最高記録

1.	兒島泰彦(慶大)	31.8	1.07.8
	葉室鐵夫(日大)	32.8	1.11.6
	新井茂雄(立大)	26.6	57.4
2.	3.25.4	谷口(日大)長久(慶大)佐々木(日)	
"	100米平泳	1. 1.21.8	長久俊三(慶大)
		1.22.2	葉室鐵夫(日大)
"	100米自由形	1. 59.4	新井茂雄(立大)
		2. 1.01.8	佐々木猛(日大)
"	300米自由形	1. 3.39.8	高橋弘(慶大)
		2. 3.57.8	鶴藤俊平(立大)
"	100米背泳	1. 1.08.6	兒島泰彦(慶大)
		2. 1.11.4	谷口利弘(日大)

第二回團體長距離競泳觀戰記

日本水上競技聯盟 小林高志



出場團體一覽表

第一泳團	濱名灣游泳協會A組
第二泳團	新潟師範學校
第三泳團	濱寺水練學校
第四泳團	靜浦小學校B組
第五泳團	濱名灣游泳協會B組
第六泳團	靜浦小學校A組
第七泳團	沼津商業
第八泳團	沼津中學
第九泳團	文理科大學瀧班
第十泳團	文理科大學遠藤班
第十一泳團	京都水上聯盟
第十二泳團	芝商業學校
第十三泳團	慶應體育會水泳部
第十四泳團	佐世保鎮守第一組
第十五泳團	橫須賀鎮守府第三組
第十六泳團	橫須賀鎮守府第二組
第十七泳團	京都武徳會第一組
第十八泳團	京都武徳會第二組
第十九泳團	熱海日泳會
第二十泳團	佐世保鎮守府第二組
第二十一泳團	橫須賀鎮守府第一組
第二十二泳團	吳鎮守府第一組
第二十三泳團	吳鎮守府第二組
第二十四泳團	日泳會
第三十五泳團	伊東體育協會青年團部
第二十六泳團	伊東體育協會青年學校部

第一回大會の昨年は稀に見る荒天なりしに引換へ今年は疊の如き青海原を前にしてとも長閑なる環境裡に競技を進められた。定刻五時三十分熱海海に集結せられたる發動機船に各役員泳團全員滞りなく分乗し出發點初島に至る。

七時三十分到着せる富士丸を最後として全舟艇初島海岸に併列、競技開始を待機す。

七時四十分泳團選手は初島小學校校庭に集合、醫事班による注意を受け泳團指揮者並に各監察員は初島神社境内に於て松澤審判長より指示を受け、泳團選手は初島小學校々舎に於て開始せられたる醫事班

による検査に應ず。諸般の準備完了を待て全員集合八時四十分大會開會式を行ふ。

宮城遙拜、皇軍勇士への感謝の默禱を嚴肅に捧げたる後、西郷會長次の如き開會の辭を述べらる。

開會式辭

不肖西郷會長ヲ勤メサセテ載キマス以上萬事ノ責任ハ會長ニ於テ引受ケマスカラ御安心ヲ願ヒマス。

役員各位ニ申上マス昨年モ行衛不明ト言フ様ナ噂ガ出マシタリシテ陸上一部ノ人ヨリ中途乗船監察者ノ避難等ガアリマシタガ、之等ハ只今申上マシタ通り全々會長ガ責任ヲ引受ケマスカラ御見込通り萬事決行セラレ手抜カリノ無イ様御願致シマス。

選手諸君ニ申上ゲケス、昨年ノ選手方ノ御話ヲ承リマスト中途デモウ駄目カト思ツタガ少シ頑張ルト又續行出來タトノ體驗デシタガ之ハ實ニ貴ヒ體驗デアリマス、此御心組デ願ヒマス。次ニ御承知ノ様ニ此太平洋ハ吾等日本人ニ於テハ天候モ害敵モ悉ク征服シテ永久ニ吾等ノモノト云フ覺悟ヲ常ニ持タネバナリマセン所デアリマス。「クラゲ」位ハ居ルト存ジマスガ御奮闘ヲ切ニ希望致シマス。以上

昭和十四年七月三十日

侯爵 西郷從徳

續て松澤審判長より競技開始の宣言あり、直に選手一同海岸の出發線に集合九時四分永井少佐の發砲を合圖に一勢に熱海に向ひて突進を開始す。此の日快晴にして波靜なりしも熱海海岸より箱根連山に靄て目標確かならず、所屬選手の發見を遅れたる泳團は指揮船よりの水路指示を得ざる爲不利なる方向に進みたるものあり。此の爲優位を失ひたる顯著なるものに第十一泳團あり。其の他指揮船の泳團に到着の遅れたるもの第七泳團、第五泳團などあり、指揮船と泳團との集結迅速なる程競技は有利なるものなる事は言を要せざるも、此の點は特に參加各泳團の留意を切望する。

出發後凡一五〇〇米にして先頭は予想の如く第十四泳團約四五十米の優位を持して全員クロールにて進み、之に續いて第一泳團其の四五十米左方に第二十一泳團が併行して力泳す。

第二十泳團、第十六泳團、第二十二泳團、第十五泳團、第二十三泳團、第二泳團、第二十四泳團、第七泳團、第六泳團等順に追及し以下各泳團独自の作戦によれる水路を選んで熱海に向ふ。

此の時既に第十七泳團、第十八泳團、第十三泳團第九泳團は圈内にありて悠々と海洋泳破の豪壯味を味ふが如く泳進す。十時二十分頃各泳團は約五六千米の距離圈内に入る。此の邊より目標たる熱海々岸埋立地も望見し得各泳團選定の水路の良否も岐路に立つ状勢となる。

先頭は依然第十四泳團、續いて百米遅れて第二十一泳團、第一泳團進み、稍離れて第十六泳團、第二十泳團更にその後第二十二泳團、二十三泳團、第十五泳團と續き、第二泳團、第二十四泳團之を追ひ、指揮船と一致して力泳中の第十一泳團も著く躍進して之に迫ること急なるものあり。

一點の雲もなき烈日の下静岡縣廳の好意による指導船天城丸、東海丸を先頭に各役員船、泳團指揮船標旗を掲げて相交錯する圖は壯觀此の上なし。

十一時先頭は魚見崎の併行線に達しゴールは約千米餘、第十四泳團先頭にありて二年連覇悦に耽るものゝ如く元氣益々盛んにピッチ依然として衰へず第二十一泳團、第十五泳團は約三四百米遅れて急追す、續く強剛二泳團の第二十泳團は泳團の集結よきも不利なる水路に位置し、第一泳團は有利なる水路を併行して進みつゝあるも泳團の半數疲勞の爲や遅れ勝ちにて集結に勞力を費す爲接戦を想はしむるものあり。

更に遅れて第二十二泳團、第二十三泳團、第十五泳團と進み、此の後より第十一泳團猛進しつゝあるも出發直後に於ける水路の不利は遂に入賞の機に影響を受けたる如く觀察さる。

以上の如く泳團より遙か遅れて第五泳團を先頭に第二泳團、十九泳團、第三泳團續々と決勝點に驀進を續けつゝあり。

斯くて先づ十四泳團ゴールイン、約八分遅れ第二十一泳團、續いて第十六泳團入線し第四位は第二十泳團、第五位は民間唯一の入賞泳團として第一泳團その榮を擔た。

遠來の吳鎮泳團は惜しくも入賞を逸し、第二十二泳團、第二十三泳團六七着と入線、第八着は力泳目覺ましきものありし第十一泳團、續て第十五泳團、第五泳團と到着す。

少年を以て編成の第六泳團日頃の鍛鍊とその撓まざる努力により堂々と第十四位を贏ち得て海國少年の意氣を示す。

此くして棄權二泳團九割二分三厘の全泳率を以て大成功裡に競技を終了す。

結果報告として取敢ず纏めました北京へ出發多忙の爲内容粗離、且亂筆にて誤記の惧多々と存じますが御寛恕を願ひます。

第二回初島熱海間競泳記録

(水温二六度
風速三米秒、風向NE)

- | | |
|---------------|---|
| 一、役員及泳團集合 | 熱海海岸
汽船乗場及ノルモザン下 |
| 一、同上出發終了 | 午前六時半 |
| 一、初島着 | 午前七時半終了 |
| 一、開會式 | 午前八時三十分 |
| 一、競技開始(二十七泳團) | 午前九時五分 |
| 第一着 | 十四泳團佐世保第一組 午前十一時二十六分(2時間22分20秒4)始メヨリ先頭=立チ其ママゴール=入ル、クロール |
| 第二着 | 二十一泳團横須賀第一組 午前十一時半(2・30・44・6)始メヨリ第二位途中濱名游泳協會=迫ラレタレドモ引離シ第二着トナル |
| 第三着 | (十六)横鎮第二組 (2・35・15・8) |
| 第四着 | (二〇)佐世保第二組 (2・37・33・4) |
| 第五着 | (一)濱名灣游泳協會A組 (3・39・27・4) |
| 第六着 | (二十三)吳鎮第二組 (2・40・27・8) |
| 第七番 | (二十二)吳鎮第一組 (2・41・58・0) |
| 第八着 | (一一)京都水上聯盟 (2・42・28・8) |
| 第九着 | (一五)横鎮第三組 (2・46・0・4) |
| 第十着 | (五)濱名灣游泳協會B組 (2・58・17・2) |
| 第十一着 | (二)新潟師範學校 (3・01・43・2) |
| 第十二着 | (十九)熱海日泳會 (3・03・33・7) |
| 第十三着 | (三)濱寺水練學校 (3・04・2・2) |
| 第十四着 | (六)靜浦小學校 (3・11・33・2) |
| 第十五着 | (四)靜浦小學校B組 (3・14・10・2) |
| 第十六着 | (七)沼津商業學校 (3・16・50・2) |
| 第十七着 | (十七)京都武徳第一組 (3・20・14・2) |
| 第十八着 | (十二)芝商業學校 (3・21・14・2) |
| 第十九着 | (二十四)日泳會 (3・21・46・2) |
| 第二十着 | (二十五)伊東體育青年團 (3・28・39・2) |
| 第二十一着 | (九)文理大(瀧組) (3・32・21・7) |

第二十二着 (十八) 京都武徳會第二組 (3・33・8・2)
 第二十三着 (二十六) 伊東體育青年學校 (3・38・55・7)
 第二十四着 (十) 文理大 (遠藤組) (3・39・49・2)
 第二十五着 (十三) 慶應體育會水泳部
 (棄權) 午後一時頃

第二十六着 (八) 沼津中學校
 (棄權セリ) 午後〇時半頃

一、初島 = 於テ午前八時〇分

海水溫度 二六・〇度

風向 南西の風弱し 風速 三米秒

一、出發線總距離 六十六米

一、二十七泳團

一、各泳團間隔 二米四五

一、位 置 決勝線 = 平行ス

泳團	所屬	指揮者(1) 泳者(2-5)	着順 所要時間	競泳狀況	所見	監察員
1	濱名灣游泳協會組	1 笥 精一郎 2 早川 正次 3 早川 源策 4 太田 善五郎 5 西尾 桂	5 2-29:27.4	全部クロールニテ泳グ潮水ノタメ視力ヲ失ヒタルモノヲ生ズ集結良		坂本慶二
2	新潟師範學校	1 岩原 糸吾 2 瀬戸 長三 3 渡邊 正 4 椿 一郎 5 井田 功	11 3-01:57.6	全部クロールニテ泳グ	指揮艇(赤根丸)故爲ニ頻變更(三笠丸)ノ止ム非キニ至ラ見タリ	佐川輝
3	濱寺水練學校	1 花岡 弘 2 杉本 末春 3 鹽見 瀧彦 4 池内 基 5 香川 莊一	13 3-08:01.6	平泳ヲ少シク混ズ、疲勞ノ色見ユ	泳者ハ同程度ノ練習アルヲ要ス	淺見利市
4	靜浦小學校B組	1 大橋 壽 2 小森 唯夫 3 古屋 昭夫 4 植松 顯次郎 5 小松 益雄	15 3-14:25.4	全部平泳ナリ、泳進路ノ選定ニ不利ノ點アリ	年齢別成績ノ判定ノ要アリ	菊池達司
5	濱名灣游泳協會組	1 竹田 成尾 2 高山 正良 3 德增 忠夫 4 堀津 三津夫 5 石塚 藤一	10 2-57:31.0	一部平泳ヲナシ他ハ殆ンドクロールヲ以テ泳グ、疲勞シキモノハ逆フ		渡邊志郎
6	靜浦小學校B組	1 岩崎 彦左衛門 2 岩崎 信夫 3 稻木 俊次 4 岩崎 勇 5 古屋 克巳	14 3-11:47.2	扇平泳ニテ泳グ、初メ左端ニテ逆流	決勝線ノ標ラケケ沖カラムヲ見ユルヲ望ム	金子藤剛

7	沼津商業學校	1 鳥井 貫一 2 池田 剛 3 綾部 幸男 4 大川 敏男 5 土佐谷 勝二	16 3-17:04.0	クロール平泳ニテ交ナリ	年齢別ニテ、指スルコトハ、航走ニ注意スルコト	由川末吉
8	沼津中學校	1 安藤 活雄 2 小澤 弘信 3 大林 功 4 森 隆男 5 杉山 祐二	途中乗船	平泳ヲ主トシテクロールヲ交ユ、決勝線前600米ニテ疲勞乗船		後藤義祝
9	文理科大學瀧班	1 瀧 輝二 2 大曲 公夫 3 武藤 孝男 4 大野 淳水 5 峰 俊明	21 3-31:36.0	クロールヲ主トシテ平泳ヲ交ユ	泳者ノ力量ニ相違アリ	庄子善作
10	文遠理科大學班	1 遠藤 三智男 2 楨 義雄 3 辻 三男 4 日比野 文一 5 森本 清	24 3-40:02.6	平泳クロールニテ泳グ、時モ相互ニ用ユ、相互ニ補助セリ	強キ平泳ニテ、肩ハ最モ安易ナリ	岡千代治
11	京都市水上聯盟	1 松本 治一 2 樋口 榮一 3 西濱 與修 4 大東 尙一 5 東 茂	8 2-42:28.8	全部クロールニテ泳グ、一列横隊路良好		阿部貞雄
12	芝商業學校	1 井筒 雄之助 2 村田 安雄 3 清水 明 4 關谷 信郎 5 高橋 茂	18 3-22:00.0	クロール、平泳、混交、疲勞者アリ		枳殼恒雄
13	慶應體育會水泳部	1 齊藤 公正 2 成宮 健次 3 窪田 羊三 4 伊澤 守之輔 5 平松 精	途中乗船	平泳ヲ以テ泳グ、疲勞シキモノハ、全テ水路ニテ乗船	揮弱者ニテ、禪ヲ以テテ、衰クメヲ用フハ注意ス	森本信一
14	佐第世保一鎮守府組	1 益山 重夫 2 松下 昌澄 3 有光 保 4 河野 勝 5 川崎 慶雄	1 2-22:20.4	全部クロール一列横隊進路良好	指導船ヲ以テテ、船中ノ見損ハクテ、前テ受ク	中原虎男
15	横第須賀鎮守府組	1 小松 三郎 2 池田 進 3 鈴木 眞治 4 河野 留吉 5 森川 幸尙	9 2-46:00.4	平泳ニテ全部泳破ス	美事ナル如ク、速力ノ如ク、カズ	眞部竹次郎

16	横須賀鎮守府組	1 高橋 信治 2 隆田 寅吉 3 宮崎 誠司 4 山田 貞秀 5 芳賀 勇	3 2-35:15.8	全部クロール、良好調子、並行シテ進ム	側ヲ通過スル機動艇相當ナリ	鈴木 喜好
17	京都武二徳會組	1 竹村 公良 2 金子 和人 3 寺石 正博 4 小仲 博 5 藤井 貞次	17 3-20:58.6	平泳後左リ、少シク疲勞セリ	平泳扇初メ偏シク、右セク	石塚 他家二
18	京都武一徳會組	1 益田佐武郎 2 益田佐武郎 3 寺石 景三 4 小仲 國夫 5 林 新之助	22 3-32:23.2	平泳ヲ主トシ、クロールヲ交ユ		高橋 萬作
19	熱海日泳會	1 山田 従一 2 青木 森利 3 高橋 正法 4 町田 實 5 多田福太郎	12 3-02:49.0	全部クロール	クロールニテ他ヲ援助スル方法研究必要ナリ、潮流利用スルト最モ必要ナリ	野口 春雄
20	佐世保鎮守府組	1 鷲尾 二男 2 大山 實盛 3 花樹 直助 4 伊比井正明 5 藤田 政逸	4 2-47:33.0	全部平泳ニシテ速力モ相當ニ美事ナリ	體力並ニ練習良好ト認ム	佐久間 玄吉
21	横須賀鎮守府組	1 町田喜久吉 2 鶴田 耕助 3 岡部 泰革 4 橋本 久 5 鈴木 春爲	2 2-30:44.6	全部クロールニテ泳グ今一息ト云フ所、力ハ少シクアリ	船頭老人ニシテ操縦ノ如クナラズ、泳團不利ナリ	望月 美奈男
22	吳鎮守府第一組	1 坂根知二郎 2 小池 正雄 3 磯部英二郎 4 間 榮作 5 中山 輝男	7 2-41:58.0	クロールニテ泳グ、横隊進泳良好		林 好三郎
23	吳鎮守府第二組	1 中迎 篤二 2 中村平三郎 3 宮迫 勝 4 片山 義雄 5 岩本 順平	6 2-40:27.8	平泳ニテ泳グ、多少疲勞セリ		土屋 忠一
24	日泳會	1 青木 勇高 2 中村 幸雄 3 大塚和二郎 4 守屋 廣義 5 吉永 知	19 3-22:00.6	全部クロールニテ泳グ、少シク疲勞セリ		小野寺 徳治

25	伊東青年體育協會	1 稻葉 良一 2 山口 榮二 3 梅原 友雄 4 齋藤 彌一 5 芥川 弘一	30 3-28:53.0	初メクロールヲ交ユ	後平泳ニシテ平泳ナレドモ少許ノ力ヲ出ス	潮流ノ要アリ、體力クローラ良好ト認ム	藤崎 國松
26	伊東青年體育協會	1 石井 繁夫 2 池田 常松 3 齋藤 勇 4 西野 英一 5 杉山 一喜	23 3-39:11.6	主トシテ少許ノ力ヲ出ス	平泳ニシテ平泳ナレドモ少許ノ力ヲ出ス	團員技術均ク乏ク	牧瀬 光雄

監察員ノ所見(代表)

一、年齢ニ依ル組合セ法

幼年組青年組(軍人ヲ含ム)等ニ區分スルヲ可ト認ム、現在ノ競技法デハ幼年組ノ優勝ハ到底望得ズ、從テ單ニ幼年組ノ參加團體ノ其ノ數モ減ズル恐アリ、本大會發展途上其ノ點特ニ考慮アリ度シ

二、指導船ヲ發動機ナキ魚船ニ改ムルヲ要ス

本大會ヲ見ルニ各泳團競泳附近ニ於テ大型小型發動機魚船ガ高速ヲ以テ航行スル時ハ其ノ附近波浪起リ泳團側ニトリテ眞ニ不利ナリ、依テ指導船ハ發動機ナキ魚船ヲ以テシ、但シ魚船不足ナルトキハ泳團競泳附近航行スル場合徴速カヲ以テ航行シ自船ノ波浪ヲ他泳團ニ及ボサザルコト

指導船以外ノ發動機魚船並ニ一般汽艇ハ一定區域外ニ在リテ警戒航行スルコト

尙機械ノ故障等ニ依リ出發時指揮困難ナル泳團アリタリ

三、危険信號ノ件

次年度依リハB旗(赤旗)ニ一定スルコト

各指導船ニハ約四米乃至五米ノ竹竿ヲ備ヘ人命其他危険ナルトキノレニ掲揚スルモノトス

四、各泳團色別帽ノ件

本年度ハ白一色ナリシモ一見判別出來得ル色別帽カ亦白色帽ノ前後ニ本年度ヨリモ大ナル數字ヲ記入スルカニ一定サレ度

五、規約信號ハ競技前ニ一定シ印刷各委員ニ渡サレ度シ

(附記) 第二回團體長距離競泳大會實況を上記ノ如クまとめて見た、明年度より、色々各方面の意見なり希望を研究して續行して行く心算である、昨年よりも成功裡に本年は終り更に明年に於て一層立派な大會の出来る事を希望する次第である。



小山賢之助

アーレント最初から飛出し百米 1:06.2
二百米 2:24.7 でトップを切つて力泳したが、之と約一米の差で喰下つて居たケーニンガーは三百六十米で美事に之を抜き若冠よく覇権を獲得した。

☆全獨逸選手権水上競技大會

全獨逸選手権水上競技大會は七月七日より九日迄三日間に亘り全国各地より選手をハムブルグに集合し盛大に舉行された、折悪しく三日間何れも荒天に見舞はれ第三日決勝競技の始まる頃から漸く日が指し始めた程度で、コンディションは餘り良くなかつたが左の如き優秀な記録を残し歐洲第一の貫祿を示した。

決勝の日には雨天にも拘らず約八千人の觀衆が詰めかけ聲援を惜しまなかつたといふから、獨逸に於ける水泳のポプularityは我が日本に優るとも劣らないと言ふ事が出来よう。

記録の中特に感ずる事は女子競泳の發達せる事であつて、日本の選手権大會の優勝記録を以つてするも、各種目共に豫選通過すら覺束ない。我國女子選手の奮起を望む次第である。

△男子(決勝のみ、コース五十米)

百米自由形

1. フィツシアー 1:00.5
2. エツケンブレツハー 1:01.4
3. ハイベル 1:01.6

フィツシアーは一九三四年以來昨年迄此種目に五連覇を遂げて居たが今年是新進ハイベル好調で豫選に於て 1:01.0 を記録したるに對しフィツシアーは 1:01.2 で六年振りに王座覆るかとも思はれたが、決勝では年少ハイベル稍上り氣味なるに乗じスタートダツシュに物を言はせたフィツシアーは五十米を 28.3 で泳破し他約半身引離しつつラストスパートも亦好調に約二體身の差を以つて堂々六連覇の偉業を成し遂げた。

二百米自由形

1. ラスコフスキー 2:19.2
2. ケーニンガー 2:20.0
3. ハイムリツヒ 2:21.3

ラスコフスキー、ケーニンガーは共に本年十六才の少年でその將來は期して待つべきものがある。

四百米自由形

1. ケーニンガー 4:56.3
2. アーレント 4:58.9
3. フレーゼ 5:06.6

千五百米自由形

1. アーレント 20:16.4
2. ケーニンガー 20:38.4
3. フレーゼ 20:51.4

百米背泳

1. シュラウフ 1:10.2
2. シュレーダー 1:11.2
3. ホツツ } 1:12.3 同着
3. キュペルス }

シュラウフの五十米に於ける途中時間 33.0

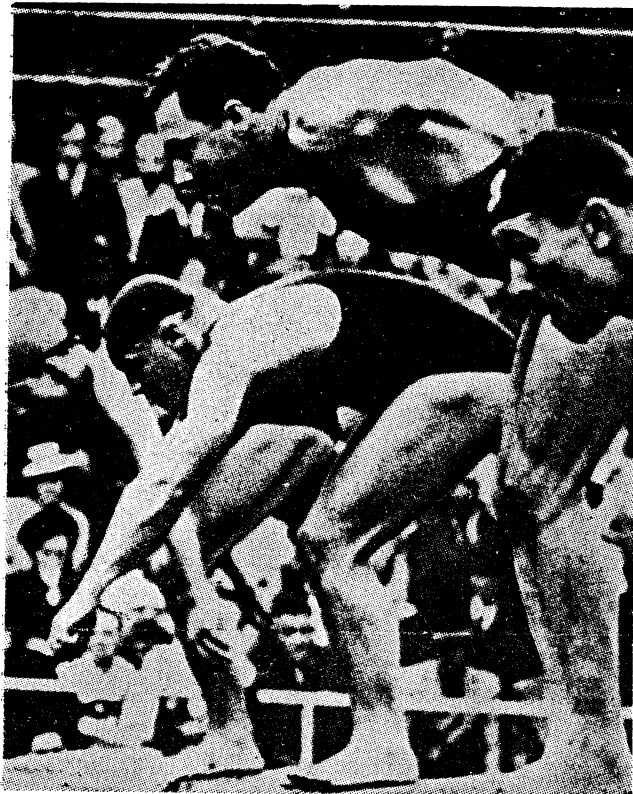
二百米平泳

此種目は獨逸が傳統的強味を誇るだけあつて、現在の世界的水準より見て、最も有望な種目である。

豫選に於ける最高記録はバルケの 2:47.4 ハイナ及び伯林オリムピックの二位ジータスが、共に 2:49.1 で之に次いで居た。此三者の接戦こそは獨逸のみならず日本の我々としても見逃し得ない大レースである。試合は果然豫期に反せず空前の大接戦となつた。先づバタフライのロガルスキーバルケぐんぐんと飛出し、五十米では一位ロガルスキー時間 33.3 次でタッチの差でバルケ約半米おくれてオールドルフ、ハイナ之れに續いた。七十米に至るやロガルスキー早くも疲勞しハイナ・オーソドックスの急ピツチで之を抜きバルケに迫つた、百米、バルケ一位、時間 1:15.4、二位ハイナ 1:16.0 之より百八十米迄の兩者のせり合ひは實に壯絶を極め、手に汗を握る白熱戦を展開した。百五十ではバルケ尙も一位を死守しタッチの差でハイナ之に迫る。百七十五に至るやバルケ漸く疲勞してフォーム崩れハイナ得意のラストスパート見事に功を奏して百八十で遂に一位を奪ひ一體身の差で前年優勝者バルケ敗れ去つたのである。

1. ハイナ 2:43.8
2. バルケ 2:45.2
3. ゴルト 2:51.0

- 4. ジータス 2:51.2
- 5. ロガルスキー 2:51.4
- 6. オールドルフ 2:51.7



獨逸平泳の巨星バルケ選手左より二人目
200米平泳 2:408.

飛板飛込	總得點	(内規定飛得點)
1. ヴァイス	161.28	(64.84)
2. ハスター	160.82	(66.30)
3. ヴァルター	153.82	(65.37)
4. アーダーホルト	151.87	(66.79)

飛板飛込決勝は前優勝者ヴァイスが規定飛第一跳に於て意外の失策を爲しその得點僅かに九點八七で決勝出場者六名中最下位といふ番狂はせ演じた爲大波瀾を起したが、ヴァイス其後懸命の努力を爲して挽回に努め、選釋飛第三跳「一回捻りながら前宙返り一回半」に於て完璧のフォームを示し一舉二十三點を獲得して僅か〇・四六點の差を以つてヴァイスの連勝する所となつた。終始平均に高點を獲得したハスターの實力も侮り難いものがある。

高飛込	總得點	(内規定飛得點)
1. ヴァイス	131.84	(55.45)
2. フォルク	121.38	(48.24)
3. キツチツヒ	119.29	(51.24)

四百米自由形繼泳

- 1. ブレーメン 4:11.2
- 2. シュパンダウ 4:12.4
- 3. ステュットガルト 4:15.8

八百米自由形繼泳

- 1. ブレーメン 9:35.8
- 2. ステュットガルト 9:44.8
- 3. マグデブルク 9:49.8

八百米平泳繼泳

- 1. マグデブルク 11:41.4
- 2. プレスラウ 11:56.5
- 3. ブレーメン 12:01.8

四百米混繼泳(百背泳、二百平、百自由)

- 1. ブレーメン 5:07.0
- 2. マグデブルク 5:09.7
- 3. グラードベツク 5:15.0

水球

デュイスブルグ 3—2 ハノーバー

前號本欄で報道した西部獨逸チームの主力を爲すシュナイダー・シュテルベルガーを持つデュイスブルグは空前の反撥力を示し、前半〇對一とリードせられ、後半劈頭更に一點を許し〇對二の頹勢から奮闘よく三點物にし、前年の覇者ハノーバーを見事に打棄つて優勝した。

△女子

百米自由形

- 1. アーレント 1:09.1
- 2. ポラツク 1:09.4
- 3. シュミツツ 1:09.6

アーレント・スタートより物凄く飛出し、五十米を30.1で折返しそのまま逃げ込んで優勝す。

四百米自由形

- 1. シュミツツ 5:41.9
- 2. ハルプスグート 5:45.0
- 3. ランナウ 5:53.3

百米背泳

- 1. ヴェーバー 1:20.2
- 2. ケラーマン 1:21.7
- 3. シュトルテ 1:24.0

優勝者ヴェーバーは今年十四才六ヶ月で前途有望の新進選手である。

二百米平泳

- 1. シュミツツ 3:02.2
(本年度世界最高記録)
- 2. ブツセ 3:04.9
- 3. ハルトマン 3:09.2

優勝者シュミツトは本年僅かに十四才、然かも長水路世界最高記録我前畑の三分一秒九に迫る大記録を樹立した。ヘルシンキオリムピックの最も有力なる優勝候補と言ふ事が出来る。

高飛込

1. エツクシュタイン 62.32
2. バルチュ 59.11
3. ダウマーラング 58.94

飛板飛込

總得点 (内規定飛得点)

1. ダウマーラング 109.04 (50.51)
2. ハルテンシュタイン 107.14 (50.03)
3. ハンゼルマン 106.60 (48.20)

四百米混継泳

1. ブレスラウ 5:47.8
2. デュイスブルク 5:48.1
3. ハロツテンブルグ 5:57.8

六百米平泳継泳

1. グラードバツハ 9:56.8
2. プラウエン 9:59.0
3. デュイスブルグ 10:00.9

日本の女子の代表軍を組織して之に加はつたとしても三着は難しさうだ。以つて我國女子水泳界の現状を知るべきである。

三百米自由形継泳

1. シュパンダウ 3:41.4
2. デュツセルドルフ 3:45.6
3. ハロツテンブルグ 3:49.6

☆獨洪對抗水上競技大會

獨逸では前記選手権大會の結果により一種目に個人競技一名團體競技一チームの代表選手を選出せるに對し、洪牙利に於ては豫選會を開催して代表選手を選出し七月十五、六兩日ヴキーンの五十米プールに於て花々しく獨洪對抗の幕が切つて落された。

此競技は各種目に兩國のナンバーワンが一名(團體競技にありては一團體)宛出でてデュールミートを行ひ、個人種目に於ては勝國三、敗國一・團體競技(継泳及水球)にありては勝國六、敗國二の得点を計算し總得点の多いもの以つて優勝國とするのである。此システムに依れば少數の人員で事足りる譯であり多人數の選手を派遣しても問題となるのは選手権であるからナカナカ頭のいいシステムだと思ふ。

試合の結果は二九對一五を以つて獨逸の大勝する事となつたが、水球に於ては洪牙利又も快勝した。洪牙利水球軍の強味は牢固として抜くべからざるものがある。

第一日 得点(夫迄の合計)

八百米継泳 獨六 洪二

1. 獨逸チーム 9:18.2
- (シュレーダー 2:20.3 ラスコフスキ 2:22.5

アーレント 2:18.3 ケーニンガー 2:17.1)

2. 洪牙利チーム 9:27.8

(ベガチ 2:23.8 エレメリ 2:20.3 ケレシー 2:20.0 レンゲル 2:23.7)

二百米平泳 獨三(九) 洪一(三)

1. ハイナ(獨) 2:44.0
2. アンギル(洪) 2:46.4 (洪新記録)

四百米自由形 獨三(十二) 洪一(四)

1. ケーニンガー(獨) 4:59.6
2. ケレシー(洪) 5:17.6

飛板飛込 獨三(十五) 洪一(五)

1. ヴアイス(獨) 162.13
2. ヒトベギ(洪) 134.46

獨逸選手権に於て規定飛込第一跳に失敗して尙百六十一點二八を得たヴァイスは殆んど獨演ともいふべき此種目に一六二點一三を得たのは偉とすべきである。

水球 獨二(十七) 洪六(十一)

洪牙利 3—1 獨逸

第二日

百米自由形 獨三(二〇) 洪一(十二)

1. フィツシア(獨) 59.5
2. エレメリ(洪) 1:01.0

アムステルダムに於けるバラニー、伯林に於けるチツクと此種目に好運な洪牙利も、獨逸選手権以來好調に在るフィツシアが五十米を 28.4、後半水に乗つて本年度歐洲最初の五十秒臺を出すの力泳に爲す所なく敗れた。

本年七月末迄に長水路で六十秒を切つたのは我が新井佐々木(米)、フィツク(米)、ピリー(加)と此のフィツシアの七名に過ぎない。

高飛込 獨三(二三) 洪一(十三)

1. ヴアイス(獨) 129.62
1. ヒトベギ(洪) 121.22

百米背泳 獨三(二六) 洪一(十四)

1. シュラウフ(獨) 1:09.4
2. レンゲル(洪) 1:13.6

シュラウフの此記録も本年度歐洲最高記録である。十秒を切つた者七月末迄に吉田、兒島、谷口の外にシュラウフ、ヘロン(米)の五名、但し此の外キーフアー(米)、バンデウエー(米)及びオリバー(濠)は百碼或は百五十碼の結果から見て同等以上の實力ありと推定せられる。

千五百米自由形 獨三(二九) 洪一(十五)

1. アーレント(獨) 20:31.0
2. ベレス(洪) 20:47.2

ベレス當年十七歳、洪牙利の長距離界を背負つて立つ新進選手である。

△バルケ二百米平泳に 2:40.80

次で七月二十二、三兩日ハノヴァーに於て獨瑞對抗競技が行はれた。獨逸選手權大會に於てハイナの爲に一敗地にまみれたバルケは其後臥薪嘗膽決死的猛練習を爲した甲斐あつて第一日に 2:43.1 の全歐最高記録を出したのを手始めに第二日は實に 2:40.8 といふ我が葉室以外には世界の何人も出し得なかつた大記録を樹立した。Schwimmer 編輯子は曰く「伯林オリンピック大會に於て日本の葉室は我がジータスの追泳を退け二分四十二秒五の長水路最高記録を以て金メダルを獲得したがバルケの此記録は之を凌駕する事正に一秒七ヘルシンキに於ける金メダルは彼が獲得するで可能性誠に濃厚なるものがある」と。

成績左の通りコースは何れも五十米。

第一日

百米背泳

- | | |
|--------------|--------|
| 1. シュウラフ(獨) | 1:10.0 |
| 2. オルソン(瑞) | 1:11.5 |
| 3. ルントムント(獨) | 1:12.8 |

二百米平泳

- | | |
|-------------|--------|
| 1. バルケ(獨) | 2:43.1 |
| 2. ロートマン(瑞) | 2:54.5 |

百米自由形

- | | |
|------------|--------|
| 1. オルソン(瑞) | 1:00.6 |
| 2. ハイベル | 1:00.8 |
| 3. シュレーダー | 1:00.8 |

四百米自由形

- | | |
|--------------|--------|
| 1. ボルグ(瑞) | 4:56.2 |
| 2. ケーニンガー(獨) | 4:56.2 |
| 3. アーレント(獨) | 5:02.9 |

水球

獨逸 5—1 瑞典

第二日

八百米リレー

- | | |
|----------|---------------|
| 1. 獨逸チーム | 9:17.9 |
| 2. 瑞典チーム | 9:22.4(瑞典新記録) |

兩チームのラツプタイム左の通り

- | | | |
|----|------------|--------|
| 獨逸 | 1. シュレーダー | 2:20.6 |
| | 2. ラスコフスキー | 2:20.8 |
| | 3. アーレント | 2:19.4 |
| | 4. ケーニンガー | 2:17.1 |
| 瑞典 | 1. イウリン | 2:18.3 |
| | 2. ヨハンソン | 2:25.5 |

3. オルソン 2:21.1

4. ボルグ 2:17.5

二百米平泳

1. バルケ(獨) 2:40.8

ラツプタイム 百 1:15.2 百五十 1:58.0

過日の日本選手權の葉室の 2:40.4 に於けるラツプは 百 1:15.6 百五十 1:57.4

百米自由形

1. ハイベル(獨) 1:00.5

2. オルソン(瑞) 1:00.9

ハイベル彼のベストタイムを出してオルソンに第一日の仇を返した。

獨瑞の正式の對抗種目は第一日の水球及び第二日の八百米繼泳で何れも獨逸の勝利に歸した。

シュヴァイマー編輯子の戦後の感想に曰く「洪牙利は獨逸に次ぐ歐洲第二の水泳國として自他共に許して居るが、對抗競技の手應へから言つて、若し獨逸對抗のシステムの下に洪瑞對抗を行つたとすれば或ひは瑞典が勝つのではあるまいか、即ち洪は水球、平泳、兩飛込に有利なるに對し、瑞は自由形三種目背泳、繼泳に優勢なるが故にその得點は二十三對二十一で瑞典の勝つ可能性が多い。然し乍ら他にも英國佛蘭西も略同様のチャンスがあるから獨逸の第一位は不動だが、第二位の形勢は混沌として居る」と、

☆百花繚亂の女子平泳界

二百米平泳の世界記録二分五十六秒九の保持者ワールベルク(和蘭)は最近好調で去る七月十三日アムステルダムの 25 米プールに於て二百碼平泳に自己の保持する世界記録二分四十一秒四を破り二分四十分三の大記録を作つた。この時の途中時間は百五十二:10.0 百七十五米 2:34.0 で二百米の世界記録を作つた當時と略同一であつたから、二百米と二百碼とでは十六秒六違ふわけである。彼女はターニングが非常に巧妙で、五十米プールで泳ぐとその最高記録は三分二秒三で、我が前畑嬢のオリンピック記録三分一秒九には及ばない。

然るに近頃世界各國でこの二百米及び二百碼の世界記録を目指す多くの平泳嬢が出現した。ざつと次の通りである。(何れも二百米長水路換算三分五秒内外)

二百米

シュミツツ(獨) 3:02.2 (長水路)

ブツセ(獨) 3:04.9 (")

マリア・レンク(ブラジル) 2:57.0 (短水路)

セーレンセン(丁抹) 2:59.4 (")

ヴォールシュレーガー(米) 3:01.7 (")

ピハイダ(獨) 3:02.0 (")

三百碼

センネセン(丁抹) 2:48.4 (短水路)

ストーレイ(英國) 2:43.4 (")

此の他前號及前々號本欄所載の白耳義のケルヒホーベ、及びセーレンセンと口角泡を飛ばす論争の末『平泳の練習を始めてセーレンセンの持つ丁抹記録を一掃して見せる』と豪語した自由形の女王ベーガー(丁抹)等米國日本の平泳が比較的弱いのに対して歐洲では百花燎亂の有様である。日本でもこのリストの中に載る程の記録を出して貰ひ度いものである。

☆ヘロン・ウオルフ好調

六月下旬ロサンゼルスズのオリムピックプール(五十米)で久方振りに米制による競技會が行はれたが成績は左の通りである。ウオルフの好調を聞くにつけその來朝中止が惜まれる。

百米自由形 ウオルフ 58.6

四百米自由形ヘロン 5:00.8

お馴染のメデイカはヘロンの爲に敢なく敗れてゐる。

百米背泳 ヘロン 1:09.6

二百米平泳 ハーゲン 2:51.0

丁蘭女子競泳對抗

女子水泳界に君臨する丁抹、和蘭の兩チームの對抗競技が六月末丁抹のヘルシנגゲール(五十米)で行はれた。成績は左の如くで丁抹軍の勝利に歸した。

百米自由形

1. ヴェーガー(丁) 1:06.4

2. ペーテルセン(丁) 1:07.7

3. ヴァンヴァイン(蘭) 1:09.5

四百米自由形

1. ヴェーガー(丁) 5:16.9

2. ヴァンヴァイン(蘭) 5:38.6

3. ハルツプ(丁) 5:50.6

百米背泳

1. イアコドフスキー(丁) 1:19.7

2. エルケンセン(丁) 1:21.8

3. プルンストローム(丁) 1:22.1

二百米平泳

1. セーレンセン(丁) 3:05.0

2. ワールベルグ(蘭) 3:05.6

3. センネセン(丁) 3:12.8

尙和蘭では此遠征軍に参加しなかつた留守軍のみの競技會が時を同じうしてアムステルダム(五十米)で行はれたが成績は左の如くで就中キントの百米背泳に於ける一分十五秒八は堂々たるものである。

百米自由形

1. シュチール 1:09.2

1. マルコープス 1:09.2(同着)

百米背泳

1. キント 1:15.8

2. センフ 1:20.1

二百米平泳

1. ハイゼルアーズ 3:10.6

2. ジーウエルゼン 3:12.2

☆全米女子戸外選手権大會

百米自由形

1. ウイリアムス 1:09.0

2. ブレナン 1:09.2

3. レオナード 1:09.4

四百米自由形

1. マーキ(十三歳) 5:29.6

2. ハイザー(十五歳) 5:31.9

3. ハーディン 5:35.8

八百米自由形

1. マーキ 11:19.9

一哩自由形

1. ライアン 24:12.8

2. マーキ 24:36.8

百米背泳

1. モトリツヂ 1:18.9

2. カレン 1:19.8

3. ベミス 1:20.3

二百米平泳

1. 勝谷富士子 3:16.3

三百米混泳

1. ブレナン 4:32.3

飛板飛込(三米)

1. オーレンコヴィツチ 135.89

2. ゲストリング 133.97

高飛込

1. ゲストリング 41.62

○その他の注目すべき記録

女子三百三十碼個人メドレー(五五碼コース)

ヘレン・レインズ(米) 4:40.2(十四才)

男子百米自由形 モスコウ 25 米プール

イゴール・リーベル(ソ聯) 59.7

男子百米平泳 同上

シモン・ボアチエンコ(ソ聯) 1:06.8

同 二百二十碼自由形 ホノルル 25 碼プール

仲間(布哇) 2:11.0

廣瀬(布哇) 2:12.3

同 五百碼自由形 同上

仲間(布) 5:27.6

茲でもメデイカは四碼の差で仲間に破れてゐる。

一哩自由形 ワイキキ百十碼コース

仲間(布) 22:57.2

右の中ボアチエンコの百米平泳一分六秒八は現在の世界記録バルケ(獨)の一分九秒五のみならず、ハウ(米)の未公認世界記録一分七秒三(既報)を破る大記録であつて、例のバタフライで作られたものであらうが、かうなると小池君邊りから抗議が出るかも知れないがオーソドックスではどうしても作れないのではないかと思はれる。(終り)

第二回國民皆泳全國學童水泳大會の記

松田保彦

豪雨、大雨、物凄く猛烈な奴だ。横撲りの大粒、十米の先は白く霞んでソフトフォーカスになつてゐる。道路は溪流を思はせる速い流れ、降る。光る。鳴る。落ちる。痛快を通り越して氣味が悪い程だ。帝都に於ける風速十五米、落雷十箇所とか、其れが前日五日の事だ。明六日は全國から集つた戦死者遺兒代表達の靖國神社詣の日、父兄たる護國の英靈に輝かしい對面をする日だ、此の雨が續いたら遺兒達が可愛相だなどと思ふ。

明るる日六日。化かされたんじゃないかと思ふ様な上天氣、實に清々しく晴れ上つてゐる、空は碧、外苑の木立は洗はれた鮮綠、白く乾いたコンクリート、クツキリと水を分けたコースロープ、立つ小波が銀鱗と閃く、まぶしい程だ。開會前のプールは靜かだ。氣温二十八度、水温二十四・三度 泳ぎには好適の状態。

九時三十分。大會開始時刻にはスタンドは約二千の觀衆だ。今年は大分觀衆が地方會場に分散した筈なのに此の人数だ、父兄達が約三分の一、小さい觀衆—ウルサ方達であるが此れが約三分の二だ。

臆がて式開始となるとスタンドの其の小さい觀衆達も起立しプールにある役員、選手達も凡て打つて一丸となり實に莊嚴靜肅に、宮城遙拜國旗掲揚 君ヶ代齊唱、武運長久祈願默禱——と肅々と式が進行する。日本水上競技聯盟會長末弘嚴太郎先生の挨拶 荒木文部大臣閣下の訓辭、國民精神總動員中央聯盟會長有馬良橋閣下の訓辭が濟んで、九時五十五分愈々團體水泳開始となると、小さい觀衆は俄然猛烈に高調子の聲援を飛ばす、ラヂオ放送に可成り邪魔になるだらうと心配する位。會場の役員も目が廻る様な忙しい一時が来る。

必死の顔付で、勢一杯の努力で泳ぐ小學生、頼もしい限りである。

順序通に進み萬才三唱で閉會、丁度午前十一時二十五分。

此の日中央會場の參加學校チーム、尋常男子九チーム同女子九チーム、高等男子八チーム同女子八チーム 人員總計三百四十人、各チームの選手の學年

別泳法別を分類すると次の様である。

× × ×

「兩表に依つて種々なる事が考へ得るが中央會場に參加し得るチームであり乍ら尙廣い學年に互らねば十名の選手を獲られぬ」と言ふこと、各種泳法に互つてでなければ選手が揃へられなかつた」と言ふこと、尙又タイムに於て見るに決して之れが練習を積んだ兒童の得る時間であるとは考へられぬ事、昨年のタイムに比して劣つた時間であつた事等を考へ合せると、結局昨年より大會の期日が早過ぎた爲め未だ何れの學校にも五十米を泳ぎ得る水に馴れた兒童が小數だつた事を證明して居る。従つて中央會場で

チーム	泳 法				學 年		
	クロール	平泳	背泳	伸泳	六年	五年	四年
尋常男子	A	10			5	3	2
	B	9	1		8	2	
	C	10			7	3	
	D	10			5	5	
	E	5	5		9	1	
	F	8	2		7	3	
	G	10			10		
	H	5	5		5	3	2
	I	9	1		8	2	
男計	76	14			64	22	4
尋常女子	A	5	4	1		7	3
	B	10				10	
	C	10				8	2
	D	10				9	1
	E	2	8			4	3
	F	5	2	3		8	1
	G	6	2	1	1	9	1
	H	6	1		3	10	
	I	8	2			10	
女計	62	19	5	4	75	11	4
總計	138	33	5	4	139	33	8
					180		
					180		

	クラス	泳 法				學 年	
		クロール	平泳	背泳	伸泳	二 年	一 年
高 等 科 男 子	A	10				7	3
	B	8	2			6	4
	C	10				10	
	D	10				10	
	E	10				9	1
	F	10				9	1
	G	10				8	2
	H	10				10	
	男計	78	2			69	11
高 等 科 女 子	A	2	7	1		7	3
	B	10				6	4
	C	8	1	1		3	7
	D	2	3		5	9	1
	E	10				7	3
	F	10				5	5
	G	10				8	2
	H	6	3	1		8	2
	女計	58	14	3	5	53	27
總計	136	16	3	5	122	38	
		160			160		

	出場 チーム	人数	タイム 合計	平均 タイム	1人50米 泳ぐ時間	
尋常科	男子	9	90	74分29秒	8分16秒	49.6 秒
	女子	9	90	88分05秒	9分47秒	58.7 秒
高等科	男子	8	80	52分36秒	6分34秒	39.5 秒
	女子	8	80	69分26秒	8分40秒	52.0 秒
	34	340		8分19秒	49.9 秒	

さへ此の有様ならば、地方に於ける水泳指導を爲す場所に不便なる地方に於ては、本年は一チーム編成する人員を持ち得なかつた爲めに惜しくも参加が出来なかつた學校も相當あるのではないかと思惟される。若しさうした結果だつたとすると來年の開催時期は餘程慎重に考慮すべきだと考へる。でないと成るべく多人數泳ぐことを目的とする國民皆泳の趣旨に反した結果となるのではないかと思ふ。又五十米泳ぐ兒童を集めるよりは二十五米泳ぐ兒童を集めるとすれば参加可能、兒童の數容易に現在の五倍位には成るのではないかと思ふ。さすれば國民皆泳の趣旨には尙一層近い結果が考へられる事になると思はれる、斯様な所感は多々ある事と思ふ。以上全國學童水泳大會中央會場の様子を略記して報告とします。(以上)

飯田光太郎氏遺稿出版

水 泳 指 導 基 準

— 正しい日本の泳目次内容 —

水泳の全貌、水泳を始める人に、水泳の必要、初期の練習、クロール及其練習、標準泳法、扇足、伸泳、片拔手、拔手、扇平泳、蛙足、平泳、浮身、潜り、背泳、逆飛、立飛、其他競技に關する一般要項附 略傳及び追悼文、末弘嚴太郎、松澤一鶴、杉本傳、白山源三郎、

我が國水上競技の進歩發達あるは實に故飯田光太郎氏の功績によるものであつて亦水泳日本の今日有る礎となられた故飯田光太郎氏を記念する爲に左寫眞の如く全日本選手權女子高飛込優勝者を表賞する爲に記念牌が作られた。



昭和十四年度定例代議員會議事録

昭和十四年八月十三日 午前十時

於 東京丸ノ内 中央亭本店

一、點呼

出席者

加盟團體代議員

北海道水上競技聯盟

山形縣體育協會

福島縣體育協會

茨城縣體育協會

關東水泳協會

橫濱水泳協會

新潟縣水泳協會

野尻湖游泳協會

松本水泳協會

靜浦游泳協會

濱名灣游泳協會

名古屋水上競技聯盟

三重水泳聯盟

京都水上競技聯盟

大阪水泳協會

兵庫縣體育協會

香川縣體育協會

和歌山縣體育協會

松江體育協會

廣島縣體育協會

愛媛縣體育協會

德島水上競技聯盟

福岡水泳協會

白杵體育協會

山口縣體育協會

群馬縣體育協會

日本學生水上競技聯盟

山梨縣水上競技聯盟

日本水上競技聯盟本部

會 長 末弘嚴太郎

評議員 加福均三、堀江耕造、野村憲夫、西本龍三

評議員 杉本傳

理事長 田畑 政治

名譽會計 大橋國太郎

常務理事 原 秀夫、笹島彦次郎

加盟團體四十の中出席團體二十八

缺席團體十二の中委任狀提出あるもの

田澤 正松
竹内 八郎
保谷 俊平
小林 三次
奥 野 良
戸 川 正
伊藤他家治
高橋庄之助
小林 高志
佐 藤 潔
山 本 操
四宮 誠一
川 田 稔
入谷唯一郎
上野 克己
小山賢之助
奥村 健治
前川 重樹
米田勇次郎
山 田 弘
鎌田 壽夫
深谷 俊明
久保義八郎
田 口 實
原岡 春雄
齋藤 巍洋
松澤 一鶴
横尾 清吾
樋口喜久男

小野塚一郎
吉澤儀三郎
小池 禮三
牧野 敏一
前田宇津彦
谷口 辰三
大谷親之輔
渡 邊 延
長久 俊三
篠塚 春昌
藤 田 明
守 田 萬

岩手水泳協會、宮城水泳協會、石川縣體育協會、岡山縣體育協會、長崎縣水泳協會、熊本縣體育協會、

以上六團體

二、出征諸役員並に皇軍將士武運長久祈願

三、會長挨拶

議 事

一、雜誌「水泳」六十六號所載前回議事録を確認す

二、諸報告

イ、オリムピックヘルシンキ大會選手派遣の件

田畑理事長説明、大勢は前回議事と大差無し即ち日本選手權大會に於て代表選手及び候補選手を決定する他インターカレッジ並に神宮競技の結果により代表選手及び候補を追加推薦し、冬季並に春季合宿練習を行ひ此結果により代表選手を追加す。

男女飛込についても候補選手を決定合宿練習を行ひオリムピック参加を期す。

右オリムピック参加の方針を可決す。

(ロ)(ハ)各大學選手(競泳、飛込、水球)女子部合同練習及び記録會報告

(競泳 齋藤巍洋氏報告)

男子は三月十五日より四月三十日迄合宿、相當良好なる成績を挙げた。四月二十日の記録會については水泳第六十五を参照され度し。

女子は東京市内のプールを持たない學校の生徒を目標に第一期を府立第六のプールに於て三月二十五日から四月三日迄第二期を四月十六日から七月三日迄毎日曜日國民體育館プールに於て行つた。之も現在の所相當の成果を得たものと思つてゐる。

水球合宿報告 (笹島彦次郎氏)

四月廿一日より廿八日迄代表軍を合宿せしめ好結果を得た特にインターカレッジの二部三部の學校の選手も加へたから今春のリーグ戦では相當此の合宿の効果が現はれたやうに思ふ。今年第二期の合宿として選手權大會の結果を見て日本代表軍を選び十日間合宿する豫定である。尙先般各加盟團體及各學校に對し水球用ボールの使用量を照會した所その回答が問合せ數の約半数しか集らない爲に商工省に對する答申が不可能であるから出来る丈早く御回答願ひ度い、さもないとボールの配給が少量となる虞れがある。

(二)指導普及に關する報告 (小林三次氏)

本年は東京と大阪とに於て行つた、東京に於ける講習會及び檢定試験については水泳第六十六號を参照され度し。

尙此頃に關聯し松澤一鶴氏より東京府に於ける小學校教員に對する指導講習會の報告並びに田畑理事長より「水泳讀本」に關する報告があつた。

尚「水泳讀本」は目下聯盟に於て文部省の推薦圖書に加へるべく手続中である。

(ホ) 國民皆泳第二回全國學童水泳大會實施狀況報告

田畑理事長

本大會についてはラヂオ設備等の費用として各加盟團體に對し五十圓乃至百圓の補助金を受けるべく運動したが之が實現せずその爲に要項の配布が遅れ各加盟團體に對し御迷惑を及ぼし相濟まない次第である。

然し國民精神總同盟の方から多少の補助が出る事となつたから、之からは毎年實施する方針である。その期日については各地からの要望もあり毎年八月二十日に實施する事と一定し度い、と提案あり放送局との交渉次第でその方さへ解決すれば右提案通り明年は八月二十日實施の事とし細目は理事會付記となる。

(ヘ) 第二回團體長距離競泳全國大會實施狀況

田畑理事長報告、並に提案（成績については水泳六十六號参照）

明年は初島一熱海の外に初島一伊東、東京灣横斷の此三コースを調査してこの中何れかに於て行ふ意嚮である。海軍其他各地との折衝並びに具體案については理事會一任の事と決定す。

(ト) 明治神宮體育大會施行方針に就て

田畑理事長報告並に希望 本年は最初厚生省の方で獨力でやるつもりであつたが到底やれない事がわかつたので運動團體に委託する事となつた、本年は府縣と各加盟體との間に多少の摩擦があるかも知れないが、各加盟團體に於かれては府縣を教育するつもりで之と協力して戴き度い。

(チ) 賞牌に関する報告

- a. 飯田氏記念牌 女子高飛込(田畑氏説明)
- b. 岩切選手記念牌 男子高飛込(原氏説明)
- c. 團體競泳特別賞盃(チームに付五組宛)

(リ) 競泳選手クラス詮衡

水泳第六十六號参照

(ヌ) 刊行物、出版事業(大橋氏報告)

- a. 昭和十四年水泳年鑑
- b. 水泳第六十三號—第六十六號
- c. 標準泳法(松澤氏説明)
- d. 水泳指導基準(同右)

(ル) 簡易プールに就いて(深谷氏説明)

之については何れパンフレットを出し、鐵筋無きプールの設計につき説明する筈

(ヲ) 關西地方委員會の報告及び希望(大谷氏説明)

a. 八月下旬女子中等學校大會を甲子園にて行ふから各位の御参加を切望す。

b. 指導者講習會、參加者二十一名中檢定試驗合格者二十名、好成绩であつた。

c. 本年は外國選手の招聘問題で中止したが明年は淀川を下る長距離競泳をやるつもりであるから参加を切望す。

d. 關西學生水上界が關東に比し年々弱體化するに鑑み之が強化の一策として、全國インターカレッジを近い將來に於て關西にて開かれ度し。

三、決議事項

イ、日本記録の中に、中等學校(男・女)小學校(高・尋及び男女)を設くる件 可決。

ロ、極東大會のトロフキーで日本に貰ひ切りになつて居るものを選手權大會又はインターカレッジに委讓する件 可決。

ハ、國際アマター水泳聯盟總會に左の議題を提出する件 可決。

a. デッドスタートを廢しもとのフラインクスタートを採用する事。

b. 世界記録を長水路を原則とし別に五百米以下に短水路記録を認める事。

c. バタフライを禁止する事。

二、飛込規定改正の件(原氏説明)

飛込競技規則第一章十六口の規定に「第七位」とあるを「第七位乃至第十位」と訂正す 可決。

四、昭和十三年度事業概要

一、諸競技會

1. 中等學校選抜選手並に女子選手記録會 四月七日、甲子園プール
2. 學生選手記録會 四月廿日、帝大室内プール
3. 關東選手權、水球、飛込、競技會 八月七日、神宮プール
4. 第一回團體長距離競泳全國大會 八月七日、熱海、初島間
5. 關東選手權水上競技大會 八月十日、神宮プール
6. 日本選手權水上競技大會 八月十九、廿、廿一日、大阪甲子園プール
7. 全國實業團選手權水上競技大會 八月二十六、二十七日、神宮プール
8. 日本女子中等一般水上競技大會 八月二十七、二十八日 名古屋振浦プール
9. 國民皆泳全國學童水上大會 八月廿八日、神宮プール

二、選手強化事業

1. 第一回男子中等選抜選手合宿練習 自三月廿五至四月七日、大阪甲子園室内プール
2. 同女子Bクラス以上廿四名合宿練習 //
3. 關東女子水泳合同練習會 自三月廿五日至四月三日 東京府立第六高女プール
4. 學聯選手競泳・飛込合同練習 自四月五日至四月二十日、東京帝大室内プール
5. 水球ナショナルチーム合同練習 自四月二十一日至四月三十日 //
6. フロイド氏招聘合同練習 A B 自六月一日至六月十四日、神宮プール 自六月十六日至六月十七日、大阪

甲子園プール

7. 第二回男子中等選抜選手合同練習 六位迄(日本中等)自七月九日至七月十八日 大阪甲子園プール
8. 中等學校飛込合同練習 自八月二十二日至八月二十二日
9. 水球合宿練習 自八月二十三日至八月二十九日、神宮プール
10. 飛込オリンピック代表候補練習 自九月二十二日至九月二十八日、神宮プール

三、指導普及事業

1. 水球簡易規則制定 水球委員會
2. 水泳指導者協會設立 四月二十二日
3. 水泳指導研究會 五月一九月、帝大プール、神宮プール、國民體育館
4. 指導者講習會 自七月六日至七月十二日、國民體育館
5. 指導者資格檢定試験 七月十三日—七月十五日、國民體育館
6. 水泳指導映畫作成
7. 水泳普及映畫講演會 八月二十日 大阪甲子園ホテル

四、記録發表

- イ、世界記録 ロ、日本最高記録 ハ、日本新記録
ニ、日本水上廿傑、中等十傑 ホ、クラス選手詮衡
ヘ、小學兒童十傑

五、建設測定事業

1. 競泳池公認
2. 公認競泳池公認ニ關スル參考パンフレット發行

六、諸會議(機關誌「水泳」各號參照)計百六十二回

1. 代議員會(一)
2. 在京代議員會(一)
3. 理事會及非常務理事會(廿六)
4. 評議員會(四)
5. 競泳競技委員會(六)
6. 飛込委員會(十一)
7. 水球委員會(十三)
8. 女子部委員會(七)
9. 標準泳法委員會(十三)
10. 記録委員會(三)
11. 外國關係委員會(二)
12. 編輯委員會(十二)
13. 二醫事部委員會(二)
14. 水泳史研究委員會(二)
15. オリンピック準備委員會(一)
16. 競泳科學委員會(二)
17. 測定委員會(十)
18. 競泳池公認委員會(十)
19. 小學校委員會(廿八)
20. 遠泳(六)
21. 學童水泳(二)

七、刊行物

1. 年鑑 1. ○○○部
2. 機關誌「水泳」年八回 1. ○○○部
3. 水球日本 1. ○○○部
4. 水球簡易規則 2. ○○○部 宛

八、賞牌ニ關スル報告

1. イ、厚生大臣盃(團體長距離競泳全國大會)
ロ、海軍大臣賞()
ハ、特別賞盃 西郷侯爵()
樋口熱海市長()
末弘會長()
2. 中等水球地方大會へ優勝楯(七個)

寄贈先(順不同)

- 關東水泳協會、橫濱水泳協會、名古屋水上競技聯盟、大阪水泳協會、京都水上競技聯盟、兵庫縣體育協會 廣島縣體育協會
3. 全國高專選手權水上競技大會 優勝牌 壹個
寄贈先 日本學生水上競技聯盟
 4. クラス章本年度
競泳 男子(Aクラス4)(Bクラス7)(Cクラス95)女子(Aクラスナシ)(Bクラス6)(Cクラス46)
飛込 男子(Aクラス2)(Bクラス1)(Cクラス10)女子(Aクラス2)(Bクラス2)(Cクラス3)
水球 男子(Aクラス7)(Bクラス13)
 5. 全國小學校本年度最優校…下記四校=楯寄贈
尋男 田邊第一尋常高等小學校 和歌山
尋女 入出尋常高等小學校 静岡
高男 橋本尋常高等小學校 和歌山
高女 九度山尋常高等小學校 和歌山
全國兒童十傑各種日優泳賞五百貳拾名授與ス 以上

五、昭和十五年度事業計畫

A 競技會計畫

- イ、昭和十五年日本選手權水上競技大會
オリムピックの關係にて最終豫選を行ひ得ず従つて期日場所を今の處定め得ざるを以つて理事會に一任する。
ロ、第五回日本女子中等學校水上競技大會
昨年名古屋本年大阪明年は東京の筈であるが期日場所其の他細目理事會付記
ハ、第十回明治神宮體育大會水上競技大會
第四回全國實業團選手權水上競技大會
第三回全國小學校教員水上競技大會
明治神宮大會は明年行はず紀元二六〇〇年大會が行はれるかも知れないので今から細目を決定し得ないので理事會へ付記す。
ニ、第三回敵前上陸團體長距離競泳全國大會
前記三コースの中一ヶ所を選び七月下旬或ひは八月上旬に行ふ、細目は理事會一任とす。
ホ、國民皆泳第三回全國學童水泳大會
前記の通り放送局其他の都合よろしければ八月二十日に舉行の事。
ヘ、日獨伊防共三國對抗水上競技大會
日獨伊の文化協定の一部として此種の大會が出来れば水球を中心として行ふ豫定。

B、選手強化事業計畫

- イ、オリムピック派遣男子競泳及飛込選手合宿練習、冬期及び春期
ロ、水球コーチ招聘
フロインド氏を招き十日間位合宿練習を爲す。

C、普及事業計畫

- イ、簡易「水泳」普及

- ロ、壯丁水泳訓練普及促進並ニ統合
- ハ、指導者資格検定試験
- ニ、水泳指導者協會
- ホ、水泳指導映畫作成
- ヘ、水泳普及映畫講演會

D、建設測定事業

- イ、水泳池公認
- ロ、公認競泳池建設—参考パンフレット

E、記録発表

- イ、世界記録
- ハ、日本新記録
- ホ、日本中等十傑
- ト、クラス選手詮衡
- ロ、日本最高記録
- ニ、日本水上廿傑
- ヘ、小學兒童十傑

F、諸會議

- イ、NSR代議員會
- ロ、NSR在京代議員會
- ハ、理事會及常務理事會
- ニ、評議員會
- ホ、専門委員會

競泳、飛込、水球、女子部記録、編輯、外國關係、建設、測定、醫事部、指導普及部、標準泳法、青年團、小學校、

G、刊行物

- イ、水泳年鑑
- ロ、機關誌「水泳」發行（年八回發行豫定）
- ハ、指導要項、其ノ他。

昭和十三年度會計報告 自 昭和十三年五月一日
至 昭和十四年四月末日

収入之部

第一項 經常收入	16,856.31
第一目 厚生省補助金	500.00
第二目 加盟金	870.00
第三目 前期繰越金	15,433.75
第四目 銀行及振替利子	52.56
第二項 事業収入	17,421.91
第一目 雑誌、年鑑及指導要項	621.32
第二目 廣告料	30.00
第三目 事業費戻り金	147.96
第四目 雑収入	254.28
第五目 競技會收入	16,367.91
第三項 體協補助金(オリンピック準備費)	1,800.00
第四項 假受金	3,870.38
第一目 故飯田氏遺兒教育資金	3,771.50
第二目 其ノ他	98.99
第五項 學聯ヨリ立替金受入	3,300.00
第六項 學聯ヨリ借入金	529.71
總計	43,777.87

支出之部

第一項 經常支出	13,131.74
----------	-----------

第一目 體協加盟金	1,000.00
第二目 FINA加盟金	257.14
第三目 事業所費	
(イ) 借室料	2,373.85
(ロ) 電話料	623.64
(ハ) 人件費	1,026.07
第四目 通信費	1,036.07
第五目 競技用品費	183.45
第六目 印刷費	456.00
第七目 文具消耗品費	168.97
第八目 會合費	3,951.22
第九目 交通宿泊費	2,954.40
第二項 事業費	16,241.17
第一目 競技場使用料	707.00
第二目 雑誌「水泳」	1,434.12
第三目 年鑑	434.39
第四目 水球讀本	295.00
第五目 獎勵費	1,181.60
第六目 競技會現場人夫費	672.47
第七目 講習會補助	104.06
第八目 強化事業費	3,329.89
第九目 中等大會補助	4,339.94
第十目 團體長距離競泳全國大會	2,400.48
第十一目 全國學童水泳大會	472.00
第十二目 圖書費	89.70
第十三目 雜費	780.34
第三項 次期繰越金	14,404.96
總計	43,777.87

昭和十五年度會計豫算案 自 昭和十五年五月一日
至 昭和十六年四月末日

収入之部

第一項 經常收入	1,480.00
第一目 厚生省補助金	500.00
第二目 加盟金	980.00
内 譯	
Aクラス(六)	300.00
Bクラス(三四)	680.00
第二項 事業収入	26,909.00
第一目 年鑑、指導要項	300.00
第二目 雑誌購讀料(一部三十錢年八回發行)	480.00
第三目 競技會實收入(豫定)	26,129.00
總計	28,380.00

支出之部

第一項 經常支出	13,389.00
第一目 加盟金	185.00
體協	100.00
FINA	約 85.00
第二目 事務所費	4,704.00
借室代	2,304.00

電話代	450.00
什器	150.00
人件費	1,800.00
第三目 通信費	1,000.00
第四目 競技會用品費	1,000.00
第五目 印刷費	2,000.00
第六目 文具消耗費	500.00
第七目 會合費	2,500.00
代議員會	500.00
理事會及常務理事會(月三回以上)	500.00
各部委員會	1,500.00
第八目 交通費	1,000.00
第九目 雜費	500.00
第二項 事業費補助六	6,500.00
第一目 講習會	200.00
第二目 雜誌「水泳」及年鑑	2,000.00

第三目 賞勵費	1,000.00
第四目 圖書費	100.00
第五目 競技場使用料及練習費	2,000.00
第六目 競技會入夫費	1,000.00
第七目 雜費	200.00
第三項	8,500.00
第一目 臨時費	1,000.00
第二目 普及事業費	3,500.00
ラヂオ學童大會	1,500.00
團體競泳	2,000.00
第三目 入場稅	2,000.00
第四目 日本中等大會補助金	2,000.00
總計	28,389.00

右昭和十五年度事業計畫及び昭和十三年度會計報告並に昭和十五年度豫算案は原案通り承認可決せられ散會す。以上

聯 盟 日 誌

7月22日	學聯實行委員會	事務所
25日	第二回全國高專選手權水上競技大會	神宮プール
	團體長距離競泳全國大會實行委員會	事務所
27日	水球競技委員會	事務所
28日	指導普及委員會	事務所
	關東豫選プログラム編輯	事務所
29日	東部中等學校水上競技大會	事務所
30日	〃	神宮プール
8月4日	關東選手權水上競技大會	神宮プール
6日	國民皆泳全國學童水泳大會	神宮プール
	關東女子中等水上競技大會	神宮プール
7日	飛込競技委員會	事務所
	競泳池公認委員會	事務所
8日	水球競技委員會	事務所
9日	理事會(日本選手權プログラム編輯)	事務所
10日	日本選手權準備委員會	事務所
11日	〃	事務所
12日	日本選手權水上競技大會	神宮プール
13日	〃	神宮プール
14日	〃	神宮プール
21日	飛込競技委員會	事務所
22日	百貨店メンバー交換會	事務所
23日	理事會原秀夫氏歡送川口又男氏歡迎會	事務所
25日	小學校委員會	幸樂所
29日	指導普及委員會	事務所
30日	小學校大會番組編成	事務所
31日	〃	〃
9月1日	〃	〃
〃	明治神宮大會日本泳法ニ關スル委員會	事務所
〃	學聯實行委員會	〃
2日	總務委員會(學聯)	朝日新聞社
	神宮競技打合會	事務所

日本水上競技
聯盟機關雜誌

水 泳

第 67 號

昭和十四年 九月十七日 納本
昭和十四年 九月二十日 發行

(日本水上競技聯盟代表)
編輯兼印刷人 宋 道 洋 一

印刷所 大日本印刷株式會社
牛込區市谷加賀町一の十二

定價30錢 年8回發行豫定・8回分 ¥2.40

豫約申込者に限り頒布す(1年前金豫約は送料不要)

廣告料 10圓乃至35圓 御申込次第詳細回答

發行並 東京市麴町區丸ビル581
申込所 日本水上競技聯盟編輯事務所
振替口座東京三九九一九番